

令和6年度（令和5年度実績）
教育委員会点検・評価報告書

令和6年11月
愛南町教育委員会

点検及び評価の概要

教育委員会の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、「教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理及び執行の状況」について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行ったので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表します。

愛南町教育委員会は、令和5年度愛南町教育基本方針を基に、学習意欲を高め、確かな学力、豊かな心、健やかな体などの生きる力をはぐくむ学校教育の推進、学校、家庭、地域が連携・協働して、次代を担う子どもたちの健やかな成長の支援、心豊かな生涯学習社会の形成などを目指して実施した取組について、自己点検・評価を行い、有識者の意見・提言を受けました。これらを「令和6年度（令和5年度実績）教育委員会点検・評価報告書」として公表します。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らが事後にその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的で効果的な教育行政の推進を図ることとします。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検及び評価の構成

1 項目

点検・評価は、「1 教育委員会の活動」、「2 教育委員会が管理・執行する事務」、「3 管理・執行を教育長に委任する事務」の三つの大項目を基本として、必要に応じて細分化し、中項目、小項目に整理し点検・評価を行いました。

2 目標

目標は令和5年度愛南町教育基本方針を基に、項目ごとに掲げました。

3 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和5年度に実施した主な取組を示しています。

4 評価

令和5年度の取組を踏まえ、進捗状況や今後の課題等、項目ごとに評価をし、ランク付けを行いました。評価の判断基準は次のとおりです。

評価	判断基準
A	よい.....成果が上がり目標を十分に達成している
B	概ねよい.....成果は上がっており、概ね目標を達成している
C	やや悪い.....成果は見られるが、改善の必要がある
D	悪い.....成果はあまり上がっておらず見直しの必要がある

5 外部からいただいた意見

点検・評価結果に対して、外部の方々の御意見を大項目ごとにまとめていただきました。御意見をいただいた方々は、次のとおりです。

氏名	住所
前田 充	愛南町城辺甲
坂尾 英治	愛南町御荘和口
田中 純樹	愛南町広見

令和6年度（令和5年度実績） 教育委員会の点検・評価一覧表

大項目	中項目	小項目	評価
1 教育委員会の活動	1 教育委員会の会議	1 開催状況、運営上の工夫及び事務局との連携	B
	2 教育委員会の自己研鑽等	1 研修会等、学校訪問・支援	A
	3 総合教育会議への参画		A
2 教育委員会が管理・執行する事務	1 教育行政の基本方針を定めること		B
	2 教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		A
	3 教育機関の委員及び職員の任免その他人事に関すること、また教職員の人事に関すること		A
	4 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること		B
	5 要保護・準要保護の認定に関すること		A
	6 高校魅力化推進に関すること		A
3 管理・執行を教育長に委任する事務	1 学校教育に関すること	1 確かな学力の定着向上	A
		2 生徒指導の徹底と健全育成	B
		3 教職員の資質と能力の向上	B
		4 特色ある学校づくり	B
		5 豊かな心を育てる教育の推進	B
		6 人権・同和教育の充実	B
		7 特別支援教育の推進	A
		8 健康教育の推進	A
		9 安全・安心な学校づくりの推進	A
		10 教育環境の整備・充実	A
		11 幼稚園の運営・管理	A
	2 学校給食に関すること	1 学校給食の運営・管理	A
		2 給食費の適正な徴収	A
	3 生涯学習に関すること	1 学び、伝え、創る生涯学習社会の形成	B
		2 あらゆる差別や偏見を解消する人権・同和教育の推進と「共生」社会の確立	B
		3 地域ぐるみで取り組む青少年の健全育成	B
		4 地域に根ざした公民館活動の充実	B
		5 地域文化振興と文化財の整備保存	A
		6 健康な町民育成のためのスポーツ振興	B

大項目	1	教育委員会の活動	評価	B
中項目	1	教育委員会の会議		
小項目	1	開催状況、運営上の工夫及び事務局との連携		

目標

- 開かれた、分かりやすい教育行政の実現に努めます。
- 教育委員会、事務局、学校その他教育機関との連携を密にし、情報収集や意見交換を積極的に行います。
- 教育委員は教育委員会の重要事項の意思決定を行う責任者であるという自覚を持ち、教育委員会における審議を活性化させるとともに、教育長及び教育委員会事務局のチェックを行います。

取組の概要、分析

会議名	回数	備考	
		議案	27件
教育委員会	14回	協議事項	14件
		報告事項	36件

教育委員会会議は、定例会を原則として毎月1回開催し、必要に応じて臨時会を開催することで情報の共有を図りました。

また、教育委員が出席可能となるように日程調整等において、各委員と十分に意思疎通を図り、開催しました。

各議案及び協議事項等において会開催時において詳細な情報提供及び説明を行い、審議の活性化が図れるよう努めました。

なお、今後においても適切な資料提供を行い、効果的な会議の開催により十分な情報共有と事務局との連携により、教育行政の実現を推進していきます。

特記事項(前年度比等)

人事案件等の重要な事案を議題とする際に協議会を開催するなど、適正な議案協議のために教育委員間の情報共有を重要視した対応を行いました。

大項目	1	教育委員会の活動	評価	A
中項目	2	教育委員の自己研鑽等		
小項目	1	研修会等、学校訪問・支援		

研修内容	
●	愛媛県市町教育委員会連合会「総会」 1. 「防災教育の重要性～水災害から命を守る～」 2. 「文化施設（IYO夢みらい館）が地域をつくる」 【研修場所：伊予市】
●	南予管内市町等教育委員会連合会「教育委員会研修会」 海・カヤック・学校 ～「海学習」への関りを通して～ 【研修場所：愛南町】

取組の概要、分析
<p>○研修 愛媛県市町教育委員会連合会や南予管内市町等教育委員会連合会において、関係市町等との連携や情報交換を深め、自己研鑽に努めました。</p> <p>○学校訪問・支援 令和5年度は、5月23日から6月29日の間に、実質9日間かけて全小中学校及び幼稚園を訪問しました。その際には全体会も実施しました。 学校の経営方針、指導体制及び教育環境等や教職員の指導状況、児童生徒の学習状況等の把握により、指導・支援に役立てることを目的として、授業の参観、諸帳簿点検、施設点検等をするなど、教育活動全般にわたり視察を行いました。また、校長だけでなく教職員から、学校運営における課題やコロナ禍における学校の現状、児童生徒の様子などの意見聴取や意見交換により、児童生徒に寄り添った対応等の実施を助言しました。特に授業参観は、適切にICTを活用し、「分かりやすく、楽しい授業」になっているか。という視点で実施しました。限られた時間の中でしたが、各学校に即した実情を把握することができました。この学校訪問からの課題や情報を基に、児童生徒の学習環境の充実に繋げられるよう努めていきます。</p>

特記事項(前年度比等)
<p>学校訪問では、令和5年度から訪問者の人数をコロナ禍以前に戻し、感染予防対策をしたうえで教育委員全員参加とした。</p> <p>また、教育委員は意見の内容が重複しないように、事前に打ち合わせを行った上で全体会に参加し、時間を短縮しつつも内容の濃い講評を実施しました。</p>

大項目	1	教育委員会の活動	評価	A
中項目	3	総合教育会議への参画		
小項目				

総合教育会議の内容	
●	第1回愛南町（篠山小中学校組合）総合教育会議 【令和5年4月20日】 1. 愛南町教育振興に関する大綱について 2. その他（愛南町公立小中学校再編計画について）
●	第2回愛南町（篠山小中学校組合）総合教育会議 【令和6年3月28日】 1. 愛南町公立小中学校再編計画について 2. その他

取組の概要、分析
<p>教育委員会では、教育委員会会議や学校訪問、各研究会等において、各委員がそれぞれの専門性や識見を発揮しながら、教育行政の推進のために活動しています。</p> <p>また、町長と教育委員会とが重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行う場である総合教育会議は、4月、3月の2回の開催がありました。</p> <p>愛南町と篠山小中学校組合との合同での総合教育会議が開催され町長、教育長及び教育委員が出席しました。</p> <p>第1回では愛南町の、目指すまちの将来像を、「ともに彩を育むまち いろこいあいなん」とし、「まちづくりはひとづくり」と考え、教育行政分野では、「豊かな心と文化を育むためのひとづくり」を政策の柱という政策実現のため、学校教育や生涯学習、文化・スポーツの充実、人権尊重・男女共同参画の実現などを通して、愛南町の未来を担う人材を育てるために、「愛南町教育振興に関する大綱」（令和5年度～令和8年度）を定めるための協議を実施し、大綱を策定しました。</p> <p>第2回では教育委員会の職務権限となる愛南町公立小中学校再編計画の変更の協議及び閉校に係る進捗等について報告をして意見交換、協議等を行いました。</p>

特記事項(前年度比等)
<p>「愛南町教育振興に関する大綱」(令和5年度～令和8年度)が策定されました。</p> <p>令和4年6月28日に策定した愛南町公立小中学校再編計画の変更について内容や状況を協議しました。</p>

教育委員会の活動に対する意見

- 全員出席を前提として調整を図り、定期的に委員会を開催し真摯な協議がなされていることを評価する。
- 教育委員会が情報共有を重視し、定期的に行われていることを評価する。
- 学校訪問がコロナ禍以前の人数に戻り、充実した訪問となっていることを評価する。特に事前に協議し、指導内容が重複しないよう調整し、効率的な指導がなされたことは素晴らしい。
- 今後も事務局と連携を密にし、学校訪問などで現場の状況・課題を把握し、学習環境を充実させてほしい。
- 今後も自己研鑽に努めていただきたい。
- 愛南町総合教育会議は、今後の学校再編を見通し、誠意ある協議を進めていただきたい。
- 教職員の資質向上を図るとともに、個々の教職員の取組が適正に評価されるよう希望する。

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	B
中項目	1	教育行政の基本方針を定めること		
小項目				

目標	
<p>議案を研究・精査し、適切な処置に努める。</p> <p>将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境を整えるために、学校の適正規模や適正配置、具体的な再編の計画を策定する。</p>	

取組の概要、分析	
<p>○令和5年4月20日に策定した「愛南町教育振興に関する大綱」（令和5年度～令和8年度）を基に「令和6年度愛南町教育基本方針」を定めました。</p> <p>○小中学校の再編について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和元年度に学校運営協議会や町PTA連合会理事会と協議 2. 令和2、3年度に学校統廃合検討委員会、検討会からの愛南町公立小中学校再編に関する答申書を受ける。 3. 令和3、4年度に答申書に係る協議を全小中学校のPTA役員と実施、全小中学校で保護者説明会を実施。再編に関する協議、住民説明会を長月、久良、内海地区で実施。 4. 令和4年6月29日 愛南町公立小中学校再編計画を策定。 5. 令和5年度に内海地域の保護者説明会・意見交換会を実施し、令和6年3月28日に計画を一部修正した。 <p>愛南町教育委員会では、コロナ禍の4年間、60回を超える協議等を保護者、地域、識見者など様々な方々と重ねて愛南町公立小中学校再編計画を策定しました。人口減という大きな流れの中で、学校再編は避けては通れない道です。しかしながら、地域社会は多様であり、学校、保護者、地域住民、行政には、子どもたちの学習環境や学校活動等について様々な考え方があります。結果として、内海地域における小学校の再編計画は、見直しをすることで保護者や地域と同意を得られたことから、計画の一部修正を実施しました。</p> <p>愛南町の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境の整備について、引き続き研究検討をしていきます。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>令和6年3月28日 令和6年度愛南町教育基本方針を定めました。</p> <p>令和6年3月28日 愛南町公立小中学校再編計画を一部修正しました。</p>	

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	2	教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		
小項目				

目標

議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析

- 教育委員会、規則 8 件
- ・愛南町立学校の廃止について
 - ・愛南町立学校設置条例の一部改正について
 - ・愛南町立公民館条例の一部改正について
 - ・愛南町学校給食センター条例の一部改正について
 - ・愛南町学校給食センター条例施行規則の一部改正について①
 - ・愛南町学校給食センター条例施行規則の一部改正について②
 - ・愛南町立中学校部活動指導員設置規則の制定について
 - ・愛南町教育委員会事務局組織規則の一部改正について
 - ・愛南町ランドセル無償配付事業実施要綱の制定について
 - ・愛南町教育委員会教育長職務代理者の事務の委任に関する規則の制定について
 - ・愛南町立学校の通学区域に関する規則の改正について
 - ・愛南町小中学校共同学校事務室の設置及び運営に関する規則の一部改正について
 - ・愛南町立学校管理規則の一部改正について

【報告】愛南町学校給食費等補助金交付要綱について

【報告】愛南町公民館住民業務窓口設置規則の一部改正について

提出議案を慎重に審議し、適切な処理を行いました。

特記事項(前年度比等)

南宇和高校魅力化推進事業(高校給食)及びランドセル無償配布事業の新規実施に伴う関連条例等の制定があります。

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	3	教育機関の委員及び職員の任免その他の人事に関する事、また、教職員の人事に関する事		
小項目				

目標	
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。	

取組の概要、分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度愛南町公民館運営審議会委員の委嘱について① ・令和5年度愛南町公民館運営審議会委員の委嘱について② ・いじめの防止等のための基本的な方針の改定について ・公立小中学校学級編制基準について ・教職員の人事異動について 【報告】町職員の人事異動について 【報告】学校運営協議会委員の任命について 【報告】愛南町スポーツ推進委員の委嘱について 【報告】愛南町人権・同和対策審議会委員の委嘱について <p>提出議案を慎重に審議し、適切な処理を行いました。</p>	

特記事項(前年度比等)	

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	B
中項目	4	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること		
小項目				

目標

議案を研究・精査し、適切な処置に努める。

取組の概要、分析

- ・令和5年度補正予算について
- ・令和6年度当初予算について

教職員の資質能力の向上を図り、先見性・多様性のある人材の育成に努めました。教職員の働き方改革による業務改善の推進、教職員の心身の健康保持、健全な職場環境を整えた上で、校長の学校経営方針、勤務年数、本人希望等も含め、教育事務所と十分な情報交換・協議を行い、市町交流や管外交流を有効に活用しながら適正配置に努めました。さらに、適正な手順による各委員等の任命・委嘱を行うことができました。

特記事項(前年度比等)

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	5	要保護及び準要保護の認定に関すること		
小項目				

目標	
議案を研究・精査し、適切な処置に努める。	

取組の概要、分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の認定者数128名（要保護3名、準要保護125名） ・却下の人数7名（小学校7名、中学校0名） ・認定者の内訳 小学校76名（要保護0名、準要保護76名） 中学校52名（要保護3名、準要保護49名） <p>支給額 5,502,990円</p> <p>適正な審査により、経済的な理由で就学困難と認められる児童生徒の保護者に必要な援助を行うことができています。今後においても、全ての児童生徒が義務教育を等しく受けることができるように努めていきます。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>前年度と比較すると準要保護数が小学生で8名、中学校で18名減少しており、それに伴い、支給額も減少しています。</p>	

要保護及び準要保護児童就学援助事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	243
施策	01 学校教育の充実	項	02 小学校費		
基本事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)

経済的理由により就学困難な児童に対して就学奨励のために必要な援助を与え、全ての児童に義務教育の円滑な実施を図りました。
援助を希望する者は、学校を通じて申請を行い、教育委員会の審査を受け認否を決定しました。

【実績】

要保護及び準要保護児童就学援助費 2,195千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	支給件数 (件)		108	84
活動					
成果	適格者で就学援助を受けて義務教育を受けている割合 (%)		100	100	100
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	14	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	2,843	2,269	2,195
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,843	2,283	2,195

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 認定者数は前年度より減少しました。 (原因) 児童数の減少によるものと考えられます。 (余地) 法令に基づくものであるため、法律に変更がない限り余地はないと考えます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

要保護及び準要保護児童生徒給食援助事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	293
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	05 学校給食費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>経済的理由により就学困難な生徒に対して給食費を援助し、全ての生徒に義務教育の円滑な実施を図りました。 学校給食費が令和5年10月から無償化されたため、本事業は令和5年9月末で休止しました。</p> <p>【実績】 準要保護児童生徒給食援助費 2,668千円</p>	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	援助した生徒数(人)	176	153
成果	成果	就学援助受給者で給食費助成を受けている割合(%)	100	100	100
成果	成果	就学援助受給者での給食費滞納額(円)	0	0	0
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	8,109	6,722	2,668
		カ 事業費(ア~オ合計)	8,109	6,722	2,668

成果 実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	<p>(状況) 援助した人数は昨年度より減少しました。 (原因) 児童・生徒数の減少による影響が大きいと考えられます。 (余地) 法令に基づくものであるため、法律に変更がない限り余地はないと考えます。</p>
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	2	教育委員会が管理・執行する事務	評価	A
中項目	6	高校魅力化推進事業に関すること		
小項目				

目標
<p>県立南宇和高等学校の魅力化を推進し、生徒の人材育成及び教育環境の向上を目指し、生徒数の確保及び学校の存続につなげる。</p>

取組の概要、分析
<p>○南宇和高等学校魅力化推進事業</p> <p>1) 進学意識及び進学イメージの向上 大学等の進学への意識向上のために高校入学後の早い段階、又は高校入学前の中学生の時点から進学意識や進学意欲の向上を図ることにより、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成します。 令和4年12月から地域おこし協力隊制度を利用して、町外からのスタッフ5名で南光叶夢センターを運営しています。</p> <p>2) 高校での給食実施 令和5年6月から愛南町学校給食センターを有効活用して、「希望する南宇和高校生」にバランスが取れた、温かい食事を提供するとともに保護者の負担の軽減へもつながります。 具体的には、小・中学生の減少により稼働に余裕のできた愛南町学校給食センターを有効活用し、町の栄養教諭が献立した栄養バランスのとれた給食を有料で提供します。給食費の負担方法については、年間の予定給食数から年額を積算し、定額制とすることで南宇和高校、愛南町及び保護者のそれぞれの負担軽減を図ります。</p> <p>○南宇和高等学校教育振興協議会補助事業 平成27年度から活力ある町づくりに寄与できる広い視野と行動力を持った人材や新しい時代の要請に応える産業技術者の育成を通して南宇和高等学校における教育の振興のための補助を実施しています。</p>

特記事項(前年度比等)
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月から南光叶夢センタースタッフを当初の計画どおり2名増員し、5名で運営しました。スタッフは全員、地域おこし協力隊制度を利用しています。 ・令和5年6月から希望する南宇和高校生に対して、給食を開始しました。

南宇和高等学校魅力化推進事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	235
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本事業	99 施策の総合推進	目	02 事務局費	計画 年度	開始：令和04年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

南宇和高等学校の魅力化推進事業として「進学意識の向上」「新時代を担う人材の育成」という「勉学」と「地域連携」により豊かな未来を創造する個性あふれる生徒の育成を事業の軸とします。

(1) 進学意識及び進学イメージの向上

「南光叶夢センター」を開設し、地域おこし協力隊制度を利用したスタッフで運営しています。火・水・金曜日：12:00-20:30、木・土曜日：10:30-19:00、(休館)日・月、祝

(2) カリキュラム支援

南宇和高校との協力体制の構築により、地域課題発見・解決型キャリア教育の取り組みなどの事業の選択及び実施を行うための、連絡調整を実施しました。

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	事業参加者数(人)			46
活動	(人)				
成果	南宇和高等学校の志願率(町内中学校)(%)			65.3	68.6
成果	(人)				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	0	10,554	12,466
		カ 事業費(ア~オ合計)	0	10,554	12,466

成果実績評価	成果状況	(状況)南宇和高等学校の魅力化推進事業を実施しています。 (原因)少子化の中、南宇和高等学校の入学者が減少しています。愛媛県県立学校振興計画で再編整備基準が明示される中、南宇和高等学校への入学者の上昇につながるように南宇和高等学校の魅力ある事業の発信や魅力ある事業の実施が必要となります。 (余地)特に町内の中学生及び保護者、小学生及び保護者に対し南宇和高等学校の魅力を発信することが重要となっています。また、保護者が必要と感じるニーズへの対応も同時に重要となります。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

[145]

南宇和高等学校教育振興協議会補助事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	239
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本 事業	99 施策の総合推進	目	03 諸費	計画 年度	開始：平成27年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

愛南町、愛南町教育委員会及び県立南宇和高等学校等で構成する南宇和高等学校教育振興協議会が実施する事業に対して補助金を交付しました。

【南宇和高等学校教育振興協議会事業】

- ・地域を支える人材や産業技術者の育成
- ・グローバルな視野を持って行動できる人材を育成するための海外研修の実施
- ・地域に根ざした新しい産業教育に関する研究や情報交換・提言
- ・学校教育活動の充実に対する支援
- ・英語4技能外部検定(GTEC)の受験料の助成
- ・遠距離通学者への通学費の助成

【実績】

南宇和高等学校教育振興協議会補助金 5,300千円

【ふるさとづくり基金充当 4,500千円】

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助金額(千円)		2,021	4,770
活動					
成果	補助を受けた各種活動に参加した生徒の人数(人)		456	464	562
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	4,500	4,500
		オ 一般	2,021	270	800
		カ 事業費(ア～オ合計)	2,021	4,770	5,300

成果実績 評価	成果状況	(状況)活動に参加した生徒の人数は、前年度より約20%増加しました。 (原因)新型コロナウィルスの影響が少なくなり、各種事業が元に戻ってきているためと考えられますが、指標値には達しませんでした。 (余地)コロナによる制限がほぼ無くなり、令和6年度以降はさらなる活動の拡大が期待されます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

教育委員会が管理・執行する事務に対する意見

- 教育委員会の事務全般について、精力的かつ効率的に執行されていることを評価する。
- 愛南町教育振興に関する大綱が策定されたこと評価する。
- 小中学校の再編計画を策定しているが、その後、保護者・地域に寄り添いながら協議を進め、一部修正を行い了承されたこと評価する。
- 南宇和高校魅力化について、給食の提供や南光叶夢センターの取り組みを評価する。南宇和高校の志願率が徐々に上昇しているのは、魅力化事業をはじめとする愛南町の施策の効果だと考える。
- 南宇和高校への給食の提供は、画期的なことであり、南宇和高校の特色の一つとして、良い取組であると思う。更なる魅力化推進事業の着手に期待する。
- 急速な少子化により、更なる学校再編計画が求められている。保護者、地域との連携を密にし、児童生徒のための最善の教育環境の整備をお願いしたい。
- 保護者の経済格差が、児童生徒の教育格差を生んでいると危惧されている。児童生徒が平等に教育を受けられるよう、細やかな支援をお願いしたい。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	1	確かな学力の定着向上		

目標

児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導や1人1台端末を活用した学習、ICT教育の更なる充実等、及び家庭との連携による学習・生活習慣の確立により、児童生徒の確かな学力の定着と向上を図る

取組の概要、分析

○全国学力・学習状況調査

- ・調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒
- ・実施日 令和5年4月18日(火)
- ・調査事項 小(中)学校：国語、算数(数学)、英語(中)

小学校では、前年度に全国平均は上回っており、今年度においてもほぼ同等の結果となり、国語科、算数科とも3ポイント上回る結果となりました。

中学校では、前年度、数学科において全国平均を大きく下回る結果でしたが、今回は全国平均並みとなりました。

前年度に引き続き良好な点として、小・中学校とも自己有用感や幸福感に関する項目において、肯定的な意見が多く見られました。また、ICTの活用に関しても、授業において積極的に取り入れられていました。ただし、教科に関する調査を取り組む際に、解答時間が不十分と答えている生徒が多いことから、問題を読むスピードが遅く、情報を素早く整理する力が不足していると思われます。全ての教科の基盤として、文章を早く正確に読み取ることが問題を解く前提になるため、多くの本や文章との出会いを推し進め、最後まで根気強く読むことや繰り返し文章を読むことで、記述された内容を正確に理解する力が身に付くよう取り組む必要があります。また、知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成を図るために、アナログとデジタルそれぞれの良さを適切に生かしながら、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を継続していく必要があります。

特記事項(前年度比等)

令和5年度は、中学校の調査において国語科、算数・数学科に加え、英語科が実施されました。

取組の詳細

〔学力調査の結果分析〕

小学校の教科に関する調査では、国語科、算数科ともに、正答率が全国平均を上回っていました。特に国語科の「話すこと・聞くこと」、算数科の「データの活用」の項目が全国平均を大きく上回っており、良好な結果でした。ただ、国語科では、「情報の扱い方に関する事項」に関する問題の中で、情報が多岐にわたる場合、その関連付けがうまくできないといった課題が見られました。また、「読むこと」の項目についても、必要な情報を見付け出す点に、若干課題が見られました。算数科では、「図形」に関する問題の中で、図形の性質が理解できていなかったり、判断するうえでの必要な情報を見付けることができなかつたりするなど、一部で課題が見られました。今後は、「読みとる力」を付けるために、必要な情報を自身で収集・選択する活動を多く取り入れ、早く正確に取得する訓練をしていく必要があります。また、家庭学習を充実を図るために、学習用端末を活用するなどして、個に応じた課題の設定をしていく必要があります。

小学校の児童質問紙調査では、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校に行くのは楽しい」、「家で計画を立てて勉強している」などの項目が、良好な結果でした。また、授業の中でのICT機器の使用や対話的な活動が、かなりの頻度取り入れられている傾向にありました。一方で、「平日の読書は30分以上である」、「読書が好きである」の項目は、少しの改善はあるものの依然として全国平均を大きく下回っているため、今後も読書活動のより一層の充実に向けた取組を重ね、読書習慣の確立に引き続き取り組んでいく必要があります。

中学校の教科に関する調査では、国語科、数学科ともに、正答率が全国平均とほぼ同等でしたが、英語科は、全国平均を大幅に下回っていました。国語科では、「書くこと」、「読むこと」に関する問題の中で、文章の内容が十分に理解できず、確かな事実や事柄に基づいた文章を書くことが難しい傾向にありました。数学科では、「図形」に関する問題の中で、図形の性質を論理的に考察することに課題が見られました。また、英語科では、「書くこと」に関する全ての問題で全国平均を大幅に下回っており、短答式、記述式の正答率が低いことから、語彙不足や文法の理解が十分でないことが考えられます。国語科と英語科の課題である「書くこと」に関しては、基礎・基本の定着を図った上で、生徒自身の考えを記述する機会を多く持ち、文構造や表現についての評価を随時行い、目指すべき内容を示していくことで効果が得られると考えます。また、数学科の「図形」については、図形の条件の整理や、イメージがわくよう具体物の提示や操作活動多く取り入れるなど、体験から図形感覚を体得させることが有効ではないかと考えます。

中学校の生徒質問調査では、「将来の夢や目標を持っている」、国語科や数学科の「授業内容がよくわかる」の項目が全国平均を上回っており、生徒の実態に即した授業改善やキャリア教育の推進の成果がうかがえました。一方で、英語科の「授業内容はよくわかる」、「平日の読書は30分以上である」の項目が全国平均を下回っていました。今後は、生徒にとって「分かる、できる」を実感できる授業となるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をより一層推進していくとともに、読書活動のより一層の充実に向けた取組を重ねる必要があります。

学校活動支援事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	237
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本事業	01 確かな学力の向上	目	03 諸費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>スクール・サポート・スタッフ配置、中学生の英語検定受験料を助成しました。臨時的に町内での発表会や体育大会に出場する児童生徒の移送経費を負担しました。</p> <p>【実績】 スクール・サポート・スタッフの配置は県補助事業で4名を配置、閉校事業に係る教職員の負担軽減のために町単独事業で3名を新たに配置しました。 学校地域コーディネーターの設置により、地域住民等と学校関係者との円滑なコミュニケーションがとれ、地域と学校との情報共有や教職員の負担軽減につなげました。 学校防災教育実践モデル地域研究事業の指定を受けて防災教育事業を実施しました。</p> <p>【特定財源】 スクール・サポート・スタッフ配置事業費補助金 2,040千円 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金 132千円 学校防災教育実践モデル地域研究事業委託金 400千円</p>	

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		配置校数 (件)	17	16
活動		児童生徒の移送件数 (件)	3	1	2
成果		配置効果割合 (%)	100	100	100
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	1,984	1,972	2,572
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	3,286	2,273	8,211
		カ 事業費 (ア～オ合計)	5,270	4,245	10,783

成果実績評価	成果状況	<p>(状況) 教員の負担軽減により教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備しています。また、授業等における児童生徒の移送が円滑に行われています。</p> <p>(原因) スクール・サポート・スタッフの配置及び学校共同事務室での調整によるものと考えます。</p> <p>(余地) 愛媛県の補助事業対象となる人材だけでなく、町単独でのスクール・サポート・スタッフの配置を行うなど教職員の負担軽減を実施しています。また、移送事業においては町のマイクロバスを利用するなど経費の削減を行っています。</p>
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

外国人英語指導助手設置事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	233
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本事業	01 確かな学力の向上	目	02 事務局費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

・ALTを各中学校に配置し、授業だけでなく学校生活の中で生徒が英語に触れられる機会を作りました。
 ・ALTが週に2回程度各小学校を訪問し、外国語活動や外国語の授業に参加しました。休み時間や給食の時間を活用し、児童が英語に慣れ親しむ機会を作りました。

【R5】JETプログラムALT：3人、業者委託ALT：2人

【実績】

・費用弁償 257千円 ・保険料 71千円 ・委託料 10,692千円 ・負担金 276千円

【ふるさとづくり基金充当 10,400千円】

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		小学校の外国語指導助手年間勤務時間 (時間)	1,890	1,820
活動		中学校の外国語指導助手年間勤務時間 (時間)	2,940	2,860	3,110
成果		各校長によるALTの優良評価の割合 (%)	97.0	100	100
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	11,235	7,000	10,400
		オ 一般	590	4,584	896
		カ 事業費 (ア～オ合計)	11,825	11,584	11,296

成果実績評価	成果状況	(状況) 小学校の英語の授業にはALTが参加しており、児童が英語に触れる機会が確保されています。中学校においても、ALTの授業参加により学習指導が効果的に実施されています。 (原因) ALTが積極的に児童生徒と関わりを持ち、交流することができています。 (余地) JETプログラムではALTの派遣年数は最長5年となっています。ALTの入れ替えが途切れなく行われることで、同様の成果が期待できます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

学校IT管理事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	233
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本事業	02 ICTを活かした教育の推進	目	02 事務局費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・PC機器及びネットワーク整備を行い、ICT環境の向上を図りました。 ・適正なネットワーク環境等を維持するために、修繕対応及び保守管理を委託しました。 ・OA機器に係る消耗品の購入を行いました。 ・ICT支援員による、研修会の開催、機器等の不具合対応を行いました。 ・PC機器リース期限に伴う機器の更新について、計画的に実施しました。 <p>【特定財源】 篠山小中学校組合システム等使用負担金 3,899千円 【ふるさとづくり基金充当 50,409千円】</p>

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		ICT機器の設置台数(台)	1,655	1,551
活動		ICT機器の効果的な活用 操作研修会の開催回数(回)	23	14	5
成果		ICT機器整備率(%)	100	100	100
成果		ICT機器の活用状況(%)	99.0	99	99
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	262	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	4,167	17,272	54,308
		オ 一般	62,813	19,596	39,338
		カ 事業費(ア～オ合計)	67,242	36,868	93,646

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	<p>(状況) 教員のICT機器の活用については、引き続き高い割合で活用できているとの回答結果がでています。 (原因) GIGAスクールサポーターの配置及びICT支援員の活用により、教員のICTに関する知識及び技術を高められたと考えられます。 (余地) 校務用機器の老朽化による不具合が生じており、機器の更新をすることで、校務を快適に行うことができると考えられます。</p>
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	2	生徒指導の徹底と健全育成		

目標	
いじめ・不登校問題の未然防止と早期対応に努め、家庭や地域及び関係機関と連携しながら生徒指導の充実を図る	

取組の分析	
<p>愛南町の小中学校において認知されたいじめ事案については、現在も継続しているケースやこじれて長期化しているといった問題等はありません。ただし、各学校において指導的な役割を果たす教職員が、今以上にいじめの未然防止及び早期発見に必要な組織的な生徒指導体制を構築するための手法等を習得していく必要があります。今後はさらに研修を積み重ねることで、いじめ問題に対応していきます。</p> <p>また、SNS等、インターネットを介したいじめは、その閉鎖性から発見自体が困難であり、深刻な問題になるまで教員も保護者も気付くことが難しく、対応が後手に回ってしまう傾向にあります。本町においても警察等との連携を図りながら、早期発見・解決の啓発に努めているところです。</p> <p>不登校事案については、児童生徒数に対して多い傾向にありますが、全国平均は下回っています。様々な要因が考えられますが、児童生徒やその保護者等に寄り添い、関係機関と連携を図りながら、包括的に支援と改善に向けた取組を継続していく必要があります。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況が五類移行したことで、教職員、保護者や児童生徒がコロナ禍以前の学校生活を取り戻すことで、ストレス状態の軽減に繋がると推察しています。</p> <p>また、人権意識を高め、人に優しく、温かい愛南町でありたいと考えます。今後も、児童生徒の笑顔のために、いじめ問題防止等に粘り強く取り組んでいく必要があります。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>社会環境の変化に伴い、児童生徒や保護者の抱える問題が多様化・複雑化していくなかで、不登校の要因として全国的に多くの割合を占めているのが「無気力・不安」「親子の関わり方」「生活リズムの乱れ等」であり、本町においても同様の傾向が推察される。</p>	

取組の詳細

○いじめ・不登校等の状況

〔いじめとして報告があった件数 小学校（9件） 中学校（6件）〕

令和4年度と比較すると、小学校で2件、中学校で3件増加しました。

各学校における定期的な教育相談やアンケート、校内生徒指導委員会（児童生徒を見つめる会）による実態把握を継続し、いじめの積極的認知、早期解決と心の相談体制の構築等の取組が功を奏していると言えます。また、学校がいじめを認知した場合には、基本方針に基づき、「いじめ詳細メモ」にて本教育委員会に詳細を報告しています。

いじめ防止対策推進法の中のいじめの定義、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」を、職務別研修会等において、教職員に対し繰り返し伝え、いじめの早期発見、早期解決、未然防止に連携して努めています。

また、児童生徒を守り育てる協議会、教育相談員学校訪問、スクールガード・リーダー巡回指導等により、継続して児童生徒の実態把握についての情報共有、共通理解を図り、組織的にいじめ防止対策に努めています。

〔不登校（30日以上欠席）として報告があった児童生徒数〕

小学校（7名） 中学校（13名）

令和4年度と比較すると、小学校で3件増加し、中学校で1件減少しました。

不登校児童生徒については、様々な要因が考えられますが、それぞれの児童生徒及び家庭環境の状況を考慮し、学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、町子ども支援センター、宇和島市こども支援教室「わかたけ」、町保健師、南予子ども・女性支援センター等の関係機関と連携を密にしながら、心の居場所づくりと教育活動の保障を行い、児童生徒及びその保護者等に寄り添いながら、包括的に対応していく努力をしています。

○愛南町いじめSTOP愛AIオンラインサミット〔令和5年8月24日（木）〕

対象者 町内の小中学校の代表児童生徒、教職員（48名）

目的 参加児童生徒一人一人が、いじめ問題にしっかりと向き合い、深く考え、自らの意識を見つめ直すとともに、活動や意見交換を通して、いじめ防止のための中心的なリーダーとしての意識を高め、自校でのいじめ問題の解決に向けた取組の推進に貢献することを目指します。

・グループワーク（オンライン通信アプリケーションを活用）

- ①各校のいじめ防止の取組の発表と意見交流
- ②学習用端末やインターネットの使用に係るいじめ防止についての意見交流
- ③ネットいじめ防止愛AI宣言の見直し
- ④その他、情報交換

○いじめ・不登校等相談員等の活用

愛南町子ども支援センターにおいて、いじめ・不登校等相談員を兼務する所員4名が、平日午後2名ずつの輪番（長期休暇中は1名）で常駐しています。

子ども支援センター（いじめ・不登校等相談員）での相談活動

・ 来所相談 223件 ・ 電話相談 11件 ・ 学校訪問 16回

相談員の学校訪問は、全小中学校を対象に行い、配慮を要する児童生徒の情報の共有と関わり方に関する協議を行うことができました。ケース会議への出席の要請がある場合も訪問しました。

また、月1回、子ども支援センターでの運営会議を開き、町教育委員会、いじめ不登校等相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等でいじめ・不登校に関する情報共有と対策についての検討を行い、個々に応じた対策を参加者で協議し、関係機関との連携につなげることができています。

○スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の活用

スクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置し、御荘中学校及び城辺中学校を拠点としてに要請に応じた訪問活動を行い、学校の要望に対応できる相談活動や支援の拡充を図りました。

心の教育推進事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	239
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本 事業	03 心の教育の充実	目	03 諸費	計画 年度	開始：平成19年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

- ・いじめ・不登校等相談員による電話相談や通所相談を行いました。
- ・スクールソーシャルワーカー等による相談・活動を行いました。
- ・町子ども支援センターでの相談及び利用を個別のニーズに添い行いました。
- ・学校を通じ家庭へチラシを配布し、一人で悩まず、先ず相談をするよう啓発しました。
- ・通級指導教室の利用を可能とし、学習面のサポートの選択肢を増やしました。
- ・不登校児童生徒支援事業は、平成30年度から宇和島圏域共生ビジョンに位置付け運営に係る必要経費を負担し、取り組んでいる事業です。

【特定財源】

スクールソーシャルワーカー活用事業費補助金 440千円

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	利用者数 (人)		647	316
活動	相談員・ソーシャルワーカー等の設置人数 (人)		7	4	8
成果	改善された割合 (対相談件数) (%)		50	50	50
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	1,040	825	440
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	3,880	3,266	4,041
		カ 事業費 (ア～オ合計)	4,920	4,091	4,481

成果実績 評価	成果状況	(状況)不登校傾向にある児童生徒数名が利用しており、心の居場所としての機能を発揮しました。 (原因)家庭環境など子供のおかれている状況が複雑化・多様化傾向にあります。 (余地)保護者との意思疎通と理解、学校、専門機関間との連携による対応がこれまで以上に重要となっています。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	3	教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化及び業務改善		

目標

児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指し、各種研修制度を活用して教職員の専門的知識・能力と社会人としての資質の向上を図るとともに学校組織の活性化に努める

取組の分析

○学校訪問による授業評価の活用

南予教育事務所・愛南町教育委員会合同学校訪問による、南予教育事務所担当管理主事及び町教育委員からの学校環境や授業等についての指導講評を活用し、更なる学校教育の質の保障・向上を目指すとともに、分かる喜びと学ぶ楽しさを感じさせるような授業を行うことができるように、教育委員会としても各校を見守りつつ、指導・改善を心掛ける等、連携・協働、支援に努めていきます。

○職務別研修会、教科・教科外研修会の充実

校長研修会（11回）、教頭研修会（3回）、研修主任等研修会（6回）等を実施し、周知事項の徹底や職務別の研修を行いました。研修テーマによっては、教務主任と研修主任の研修会を合同で開催するなど、業務の効率化も図るようにしました。

令和の日本型学校教育を実現する「新たな教師の学びの姿」として、個別最適化された学習と協働的な学習、ICTを活用した学習等に即応できるよう教職員の資質向上を図ります。複式学級学習支援員及び特別支援教育支援員が学級担任等との連携によって複式教育や特別支援教育のニーズに添えるようします。愛媛県の教職員育成指標をベースに、「学び続ける教職員」の資質の向上を図ります。

特記事項(前年度比等)

いじめの未然防止及び早期発見等に必要である組織的な生徒指導体制を構築するための手法等の習得を図り、いじめ問題に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組や各学校において教職員の専門性向上を推進する力を育成するために、愛媛大学教育学部の白松賢教授のご指導のもと、全ての教職員を対象として、いじめ問題対策研修会を実施しました。

【実施日：令和5年8月9日、10日】

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	4	特色ある学校づくり		

目標

学校の創意工夫を生かした特色ある学校、地域とともにある学校づくりを推進する

取組の分析

- 学校評価の実施と活用
 学校における自己評価、学校関係者評価の実施と結果の公表
 全小中学校で、年2回の自己評価・学校関係者評価を実施しています。
 学校評価については、統一質問項目（愛南町総合計画「後期基本計画」に関わる内容6項目）を定めて活用しています。学校評価の実施に当たっては、業務負担を軽減するため、WEBアンケート形式で行いました。
 各校での評価結果と対策については、学校だよりやホームページ等で公表し、学校経営の改善に努めています。
- えひめ教育月間（愛媛教育の日）関連事業の推進
 各校で、実情に合わせて、地域性を生かした取組が実践されています。
- コミュニティ・スクールの推進
 愛南町は、全小中学校がコミュニティ・スクールとして、協力的な人的資源の強みを生かしながら、つながりと地域の特色を生かした学校経営を行っています。
 今後も継続して、よりよい「地域とともにある学校」づくりを行っていきます。また、学校と地域をつなげる役割となる地域コーディネーターの全学校への配置を検討しています。

特記事項(前年度比等)

令和5年度から学校地域コーディネーターを多くの学校で配置しました。学校と地域との連携の促進や地域における体験学習等の教材化支援等を行い、地域の文化や伝統を継承し、人的・物的環境を活用するとともに、教職員の負担軽減に繋げました。

小学校振興事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	243
施策	01 学校教育の充実	項	02 小学校費		
基本 事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費	計画 年度	開始：令和02年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)

児童の教育活動について確かな学力向上を図りました。
校外学習等における運転手の雇用及び車の借上げを行いました。
講師を招き講座などを開講しました。
学校図書を購入しました。

【実績】
事業謝礼 594千円
消耗品費 7,947千円
実習材料費 240千円
諸手数料 271千円
車借上料 2,565千円 他

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	図書購入数 (冊)		1,711	1,626
活動	講座、校外活動等の実施回数 (回)		80	136	151
成果	学習意欲が向上している児童の割合 (%)		94.0	93.6	70.3
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	12,591	13,262	12,884
		カ 事業費 (ア～オ合計)	12,591	13,262	12,884

成果実績 評価	成果状況	(状況) 全国学力・学習状況調査の結果では、学習習慣等の肯定割合が低下しています。 (原因) 全国調査の設問が、より自主的に学習に取り組む姿勢を問う内容になったことによるものです。 (余地) 家庭学習の習慣化とその内容の改善を検討する余地があります。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大 中 小 なし	

f1081j

中学校振興事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	247
施策	01 学校教育の充実	項	03 中学校費		
基本事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費	計画 年度	開始：令和02年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>生徒の教育活動について確かな学力向上を図りました。 校外学習等における運転手の雇用及び車の借上げを行いました。 講師を招き講座などを開講しました。 学校図書を購入しました。</p> <p>【実績】 記念品費 414千円 消耗品費 4,120千円 修繕料 271千円 車借上料 892千円 備品購入費 1,194千円 他</p>	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	図書購入数 (冊)		831	765
活動	講座、校外活動等の実施回数 (回)		7	12	12
成果	学習意欲が向上している生徒の割合 (%)		93.0	89.5	58.6
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	14,027	10,858	7,631
		カ 事業費 (ア～オ合計)	14,027	10,858	7,631

成果実績 評価	成果状況	<p>(状況) 全国学力・学習状況調査の結果では、学習習慣等の肯定割合が低下しています。 (原因) 全国調査の設問が、より自主的に学習に取り組む姿勢を問う内容になったことによるものです。 (余地) 家庭学習の習慣化とその内容の改善を検討する余地があります。</p>
	<p>向上 維持・横ばい 低下・悪化</p> <p>成果向上余地 大 中 小 なし</p>	

中学生海外研修事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	247
施策	01 学校教育の充実	項	03 中学校費		
基本事業	01 確かな学力の向上	目	02 教育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)

町内中学校3年生をオーストラリアへ派遣し、現地の小学校等を訪問しました。また、ホームステイを通じて、生徒・家族との交流を行いました。
事前の研修会においては、その国の言葉、文化、生活習慣の学習や、訪問先の生徒等に日本の文化をどう伝えるかの学習を行いました。研修後に報告会を開催し、実際に肌で感じたこと、この経験を今後どう発展させるかを発表しました。

【実績】・中学生海外研修事業委託料 7,990千円
・消耗品費 13千円

【特定財源】

・地方債（過疎債）7,500千円
・中学生海外研修事業個人負担金 440千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		中学生派遣人数(人)	0	0
成果		海外派遣が有意義であった生徒数(人)	0	0	11
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	7,500
		エ その他	0	0	440
		オ 一般	0	0	63
		カ 事業費(ア～オ合計)	0	0	8,003

成果実績評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況)派遣を中止しました。 (原因)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によります。 (余地)参加者が有意義と感じられるよう研修内容を深め、今後も継続して実施することで国際理解教育の充実を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	5	豊かな心を育てる教育の推進		

目標

他者を思う気持ち、思いやりの心や感動する心、正義感や社会貢献の精神等、豊かな人間性を養う

取組の分析

○道徳科の授業の充実と体験活動を通じた学びの充実

「自他の生命の尊さ」を認識させる指導を徹底するとともに、すべての教育活動を通して人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念等の道徳心を培う指導を充実させました。また、ボランティア活動や地域社会との交流を通じて、他者を思いやる行動を実践しました。活動後には、自身の行動や感じたことを振り返り、他者への思いやりがどのように発揮されたかを考えることで、自己の成長を実感し、更に他者を思いやる気持ちを高めました。

道徳科や学級活動等の授業を中心に「いじめの防止」や「命の大切さ」について繰り返し指導していくことで、他者の気持ちを理解し、共感する力や他者の命を尊重する力を育んだり、自己肯定感を高めたり、他者と円滑にコミュニケーションを取る力を育てたりしています。

学校行事など豊かな体験活動を通して、自尊感情を高めるとともに、児童生徒の自立心や自律性を育成する指導を充実させました。

規範意識を確実に身に付けさせ、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てる指導を充実させました。

- ・「考え、議論する道徳」の授業の充実
- ・キャリアパスポートの活用等によるキャリア教育の充実
- ・職場体験活動（ジョブ・チャレU-15）、ボランティア活動、自然体験活動等の積極的な実施
- ・運動会（体育祭）、文化祭等の学校行事でのリーダーシップの発揮や模範行動
- ・性別にとらわれない適性に応じた教育の推進

特記事項(前年度比等)

児童生徒が自らの生き方や価値観について深く考え、他者と意見を交換しながら多様な視点で学ぶことを意識した「考え、議論する道徳」を今後も継続して進めていく必要があります。また、異なる環境や状況での学びや体験を通して、豊かな人間性を育てていくとともに、予測困難な社会に対し、コミュニケーション能力を高め、柔軟に対応できる児童生徒を育てていく必要があります。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	6	人権・同和教育の充実		

目標	
<p>すべての教育活動の中で、あらゆる差別や偏見を解消するための人権・同和教育を推進する</p>	

取組の分析	
<p>○校区別人権・同和教育懇談会の開催 全小中学校で、保護者や一部の地域住民を招いて、人権学習や道徳科等の授業公開、講演会、話し合い活動等様々な取組が行われました。</p> <p>○人権・同和教育補助資料の活用 南宇和郡人権・同和教育部会が作成した補助資料の改善を図り、年間指導計画に位置付けながら、各学校において活用しています。郡内統一教材の見直し等を行い、効果的な資料の活用を行っていくことが必要です。</p> <p>各校において、学級経営、生徒指導、道徳教育等の計画を作成するにあたり、人権を尊重した内容になるよう考慮して構成しています。今後も、一人一人の教職員が、差別の現実に学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする、様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立するとともに、人権意識を高めるための研修を企画運営し、教職員の資質能力の向上に努めていきます。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>南予地区人権・同和教育研究大会が一本松地域で令和5年10月12日に開催され、一本松保育所、一本松小、中学校、南宇和高等学校が会場となりました。一本松中学校では、スモールディスカッションを取り入れた授業を実施し、活発な意見交換により様々な人権問題に主体的に取り組もうとする意欲や態度の育成に努めました。</p>	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	7	特別支援教育の推進		

目標

児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る

取組の分析

- 支援員の配置と活用
特別支援学級及び配慮が必要とされる児童生徒の在籍する通常学級へ特別支援教育支援員を配置し、学級担任と協力しながら適切な支援に努めました。
- 就学指導体制の充実
教育支援委員会の開催（年4回開催）
配慮を要する幼児・児童生徒の就学にあたり、障がいの種類・程度等に応じて総合的な判断を行うため教育支援委員会を開催し、教育学・医学・心理学等の専門的知識を有する者から意見聴取のうえ、適切な就学指導を行いました。
教育支援委員による教育相談
町就学相談（15件）
- 通級指導教室による指導・支援の充実
通級指導教室の開設（平城小、城辺小、城辺中）
50名（自校46名、他校4名）が通級
- 特別支援学級による指導・支援の充実
特別支援学級の開設
11校 17学級 41名
支援員34名

特記事項(前年度比等)

配慮の必要な児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な指導及び必要な支援を行っています。

特別支援教育に携わる教職員等の資質向上を図るため研修会を開催し、配慮を要する児童生徒が豊かな学校生活を送るために必要な支援等について検討を行いました。

該当児童生徒を中心とした支援の在り方を確認し、保護者・教職員・教育支援員との意思疎通を図りながら必要な支援を実践しています。

各幼保育所、小中学校や関係機関との連携を引き続き継続し、情報の共有と具体的な支援の在り方等を協議しながら、より良い体制づくりを進めていきます。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	8	健康教育の推進		

目標	
<p>運動を通じて体力を養うとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成しよう</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用 愛南町の全小学校の5年生、全中学校の2年生対象】</p> <p>○食育推進事業の推進</p>	

取組の分析	
<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用 新体力テストの内容 ＜小学校＞ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの8項目。 全国平均と比較し、男子はわずかに高い結果となり、女子は非常に高い結果となりました。男子は、4項目、女子は、全ての項目で全国平均を上回りました。</p> <p>＜中学校＞ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの8項目。 全国平均と比較し、男女とも非常に高い結果となりました。男女とも、7項目で全国平均を上回りました。</p> <p>○食育推進事業の推進 健全な食生活の実践として、栄養教諭や愛南町栄養士との関わりはもちろん、食生活改善推進委員や地域コーディネーター、地元の農家の方々から多くの協力を得て、栽培から収穫、食事作りといった体験活動を取り入れたり、栄養のバランスを考えた食事の取り方や食べ方、運動習慣など生活習慣病予防のための指導など、保育所をはじめ、幼稚園、小・中・高校と、年代に応じた食に関する指導を実践しています。また、各学校からは食育だよりや保健だより、栄養教諭、栄養士からは学校栄養士だよりや給食だよりを各家庭に配付し、食育についての継続した啓発活動に努めています。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果については、全国と比較しても高い傾向でしたが、児童生徒の体力や運動に親しむ習慣には格差があることが分かりました。特に年齢が進むにつれ、健康管理に伴う体力の向上についての意識の低さが結果として表れています。今後は、パーフェクト自己新記録賞の取組を継続しつつ、家庭でもできる簡単な運動の紹介や学校における運動時間の確保に努め、健康増進につながる体力向上の必要性を理解した上で、進んで体育の授業に参加するだけでなく、生涯にわたって運動の習慣化が身に付くような、工夫した授業改善や情報の提供の必要性が推察されます。</p> <p>また、食育活動の推進については、関係機関との連携を深めるとともに、各校での取組を共有しつつ、引き続き、食を通じた生活習慣づくりの充実に努めていく必要があります。</p>	

取組の詳細

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と活用

新体力テストの内容

<小学校>

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの8項目。

●男子

握力、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランの4項目で全国平均を上回り、上体起こし、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの4項目は、全国平均を下回りました。

質問紙調査では、「体育の授業は楽しい・やや楽しい」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」の割合が高くなっており、「運動が好き・やや好き」「朝食を毎日食べる」「スクリーンタイム（3時間未満）」「体育の授業で進んで学習に参加している」の割合が低い傾向でした。

体育の授業は楽しめたり、運動の重要性は理解しているものの、運動の習慣化までには至っていないという課題が残りました。

●女子

8項目全てで全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「1週間の総運動時間」「スクリーンタイム（3時間未満）」「体育の授業は楽しい・やや楽しい」「体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」とほとんどの項目で割合は高くなっています。

運動の重要性を理解し、体力向上に向けた意識の高さを感じられましたが、昨年度に引き続き「朝食を毎日食べる」の割合は低く、食事と運動（健康）の関連性についての理解と実行力に課題があります。

<中学校>

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの8項目。

●男子

全国平均と比較し、非常に高い結果となりました。ハンドボール投げを除く7項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「1時間の総運動量」「朝食を毎日食べる」「スクリーンタイム（3時間未満）」「保健知育の授業は楽しい・やや楽しい」「保健体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」といった多くの項目において、割合が低い傾向でした。

●女子

長座体前屈を除く7項目で全国平均を上回りました。

質問紙調査では、「1週間の総運動時間」「スクリーンタイム（3時間未満）」の項目で割合は高かったものの、「保健体育の授業は楽しい・やや楽しい」「保健体育の授業で進んで学習に参加している」「保健を学習してもっと運動しようと思った」「体力向上についての目標を設定している」といった多くの項目で割合が低い傾向でした。

男女とも、体力結果は良好であるものの、自分自身の健康管理に関して関心が低く、積極的に体を動かすことにおいて抵抗があるという結果となりました。

○食育推進事業の推進

愛南町教育委員会指定「学校を中心とした食育推進事業」の研究指定校である平城小学校が、「自ら考え、よりよい食生活を目指そうとする児童の育成」というテーマの下、2年間の取組やその成果について、研究発表を行いました。日々の教育活動の中での指導や啓発をはじめ、専門的な知識・技能を持つ外部講師や地域の方々、保護者などとの連携を図ることで、児童は食についての知識や技能を身に付け、食に関する興味や関心を高めることができました。

水産課と連携したぎょしょく教育、農林課と連携した柑橘等の学習、農業支援センターや青果市場、愛南漁協等での産業や特産品についての地域見学などを通じて、地域の食への関心や感謝の気持ちを養いました。

児童生徒教職員健康管理事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	04 健やかな体の育成	目	01 保健体育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)

定期健康診断や学校環境衛生検査等を実施し、安心安全で健康的な環境づくりを行いました。

- ・児童生徒定期健康診断 ・学校医、学校歯科医、学校薬剤師の委嘱
- ・学校環境衛生検査 ・アレルギーのある児童生徒の給食対応
- ・フッ素洗口事業 ・教職員の定期検診及びストレスチェック
- ・新型コロナウイルス感染症対策として全普通教室にCO2濃度測定器を整備しました。

【実績】

- ・委員等報酬（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）報酬 1,230千円
- ・消耗品費 745千円 ・医薬材料費 89千円 ・検査手数料 5,609千円

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		児童生徒定期健康診断及び学校環境検査受診人数（人）	1,088	1,023
活動		学校給食におけるアレルギー対応数（人）	29	28	28
成果		学校給食アレルギー対応児童生徒の事故等発生数（人）	0	0	0
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	762	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	6,397	6,868	7,673
		カ 事業費(ア～オ合計)	6,397	7,630	7,673

成果実績 評価	成果状況	（状況）アレルギー対応児童生徒の事故はなく、事業成果は順調でした。 （原因）保護者、学校及び給食センターとの連携が図られ、アレルギー対応給食の 管理が適切に行われていたためと思われます。 （余地）今後も継続して、適切な指導・管理を実施していきます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

学校保健 体育会支援事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費		
基本事業	99 施策の総合推進	目	01 保健体育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和05年度

手段 (R05年度の取り組み)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校体育会の開催に要する経費を負担しました。 ・学校体育会の要望する備品等について、予算の範囲内において購入し、運営の促進を図りました。 ・部活動指導員制度を導入し、2名を配置しました。指導体制の充実を図ることにより、生徒の心身の発達を踏るとともに、引率等における教員の負担軽減を図りました。 ・部活動外部指導員は14名の登録者の協力により、指導体制の充実を図りました。 <p>【ふるさとづくり基金充当 3,000千円】</p>

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	学校体育会等開催回数(回)	6	6
活動	活動	大会等の回数(回)	5	7	5
成果	成果	参加人数(人)	1,040	869	970
成果	成果				
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	1,273	1,600	3,000
		オ 一般	952	394	147
		カ 事業費(ア～オ合計)	2,225	1,994	3,147

成果実績評価	成果状況	(状況)団体競技では上位大会の活躍が難しくなっています。 (原因)児童生徒の減少で、団体競技の定数確保ができない場合などの事例がでてきています。 (余地)中学校における合同チームへの指導や外部指導者等の取り組みの構築協議を開始しました。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	9	安全・安心な学校づくりの推進		

目標

児童生徒の安全を第一とし、児童生徒の命が輝き、安心して学校生活を送ることができる環境づくりや安全教育を推進しよう

○防災教育の推進

愛媛県指定「学校防災教育実践モデル地域事業」家串小学校

○青色防犯パトロールや子ども見守り隊の活動の推進

取組の分析

○防災教育の推進

愛媛県から「学校防災教育実践モデル地域事業」の指定を受け、家串小学校を拠点校とし、南海トラフ巨大地震に特化した防災教育を実施しました。段階的な避難訓練をはじめ、講師を招き指導いただいた「マイ・タイムラインの作成」や「HUG活動（避難所運営ゲーム）」、家族と共に考える「防災さんぽ」や「家族防災会議」、「防災ワークショップ」、地域の自主防災会や周辺学校にも参加をいただいた「黒潮町視察研修」や「家串小学校区合同避難訓練」など、様々な活動を実施することで、自分の命を守る行動や意識の向上はもちろん、地域全体に「誰一人残さない」や「連携して地震・津波から命を守る」という雰囲気醸成することができました。また、12月3日には防災学習成果報告会を開催し、各学年の取組も含めて成果や今後の課題について発表しました。報告会の中で、地域の方や保護者も交えたHUG活動を実施しましたが、小学生が大人の参加者をリードする場面が多くあり、これまでの学習成果がはっきりと見えるものとなっていました。

柏小学校が愛南町防災教育研究指定を受け研究を進めてきました。防災マップ作りを通して地域を知り、「自助・互助・共助」意識を高め、地域の防災・減災につなげる防災学習に取組みました。また、令和5年9月28日には国土交通省大洲河川国道事務所の協力のもと、研究発表会を実施しました。

各小中学校では、起震車体験や砂防学習会などを積極的に行うなど、防災・減災への取組を進めてきました。また、御荘中学校では、『第3回全国「防災小説」オンライン交流会』に参加（3年連続）し、防災小説の発表や意見交換を通して全国各地の中学生との交流を深め、防災意識を高め合いました。

○青色防犯パトロールや子ども見守り隊の活動の推進

2名のスクールガード・リーダーが年3回程度全小中学校を巡回し、学校の防犯体制や見守り隊への指導を行いました。また、不審者情報に対しての対応や学校警察連絡協議会での指導助言等、協働した活動を行っています。

特記事項(前年度比等)

愛媛大学防災情報研究センターの二神透准教授や慶應義塾大学の大木聖子准教授、本町防災対策課、地域コーディネーターの助言や指導のもと、多くの体験を通して課題解決学習を進めることで、児童生徒の防災意識は高まっており、防災教育を続けることで地域を深く知り、それがいつまでも地域を守っていきたいという、郷土を愛することにつながっています。また、中学校の実践のように、愛南町以外の地域の特色を知ることは、更なる防災意識を高めることはもちろん、自分たちの住んでいる地域に誇りを持って、発信していくことにもつながっています。今後も継続した活動が必要不可欠です。

子どもたちの見守り活動や通学路の安全点検は、継続して、交通安全協会や地域の見守り隊及び関係機関と連携し対応を進めています。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	10	教育環境の整備・充実		

目標

児童生徒や教職員が安心して充実した学校生活を送れるよう教育環境の整備・充実を図る

取組の概要、分析

○教育環境の充実

子どもたちへのより良い教育環境の確保を行うため、支援員を配置するとともに、教育活動の充実のために学校配置の適正化についても保護者・地域のニーズへの対応を行っています。

○施設設備の充実

学校施設環境改善交付金を活用し、一本松小学校及び御荘中学校のトイレ洋式化を実施しました。また、町単独事業にて長月小学校体育館、一本松中学校のトイレ洋式化の改修も行っています。その他、過疎対策事業債を利用し城辺小学校体育館屋根改修を行いました。

施設の維持管理及び備品の整備については各学校の要望を基に行いました。

特記事項(前年度比等)

学校施設防災機能強化事業

教育委員会部局 学校教育課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	235
施策	01 学校教育の充実	項	01 教育総務費		
基本 事業	05 安心安全な教育環境の整備	目	02 事務局費	計画 年度	開始：平成28年度 終了：令和06年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>・災害時の避難所となっている学校施設（体育館）の防災機能強化を図るため、計画的に事業を進めました。</p> <p>【実績】</p> <p>・長月小学校体育館 1,067千円</p>	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		防災施設整備の件数 (件)	4	6
活動		運用計画書の活用回数 (回)	0	0	0
成果		防災施設整備率 (%)	40.0	60.0	80.0
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	1,144	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	1,452	0	1,067
		カ 事業費 (ア~オ合計)	1,452	1,144	1,067

成果 実績 評価	成果状況	<p>(状況) 計画通り年間2校の体育館トイレ洋式化を実施しました。</p> <p>(原因) 和式便器設置台数が多いためと考えられます。</p> <p>(余地) 体育館トイレの洋式化を進めることにより、更なる防災機能の向上を図ります。引き続き整備を行っていきます。</p>
	<p>向上</p> <p>維持・横ばい</p> <p>低下・悪化</p> <p>成果向上余地</p> <p>大</p> <p>中</p> <p>小</p> <p>なし</p>	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	1	学校教育に関すること		
小項目	1	幼稚園の管理・運営		

目標	
心身ともにたくましく、豊かな心をもつ子どもを育てる	

取組の概要、分析									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>あいなん幼稚園</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3歳児</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table> <p>たくましく豊かな人間性の基礎を培うため、様々な遊びや活動を通して多様な体験の実現を目指し、主体性と協調性を育てています。そして子どもたちがのびのびと活動できるような環境を整えることで、様々な経験や体験の積み重ねから、主体的な学びへとつながることができています。</p> <p>また、日々の遊びにおいて、友達との共同性を深め一人ひとりの持ち味が発揮されるように、互いのよさを認め合う場面を増やせるようにしました。教諭は、幼児の姿や実態を的確に把握し、園内での話し合いを重ねることにより、環境構成や援助などを工夫することができました。</p> <p>全体的には、幼稚園の教育目標に沿った教育が推進できました。コロナ感染防止対策として基本的な感染防止策の実施を行いつつ、保護者と連携し、できる範囲においてコロナ過以前に戻しつつ事業を実施することができました。今後も、家庭との連携を密にし、よりよい支援ができるよう課題を検討し、一人ひとりを大切にしたい教育について、更に努力していきます。</p>		あいなん幼稚園	人 数	3歳児	7名	4歳児	4名	5歳児	2名
あいなん幼稚園	人 数								
3歳児	7名								
4歳児	4名								
5歳児	2名								

特記事項(前年度比等)	
<p>令和5年度は、令和4年度から行っている「防災教室」を計画し、保護者と一緒に防災について研修を行うことができました。防災教室の中で車中泊体験を日中の短時間に実施し、自家用車での寝心地や車内で過ごす時間に幼児の不安を少しでも軽減できる工夫をしておくこと等の必要性を考える機会となりました。</p> <p>また、PTA役員の保護者の方が参加された県PTA研修会でのドローン体験の報告をいただき、園でもやってみようという事で、「親子ドローン教室」として計画から行い実施し、貴重な体験の機会となりました。</p>	

預かり保育事業

教育委員会部局 あいなん幼稚園

政策	01 支えあい健やかに暮らせるまちづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	249
施策	01 次世代につなぐ子ども・子育て支援の充実	項	04 幼稚園費		
基本事業	02 保育サービス等の充実	目	01 幼稚園管理費	計画 年度	開始：平成28年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

- ・子ども・子育て支援制度に基づき、保育の提供と子育て支援の充実を目的に、預かり保育サービスを行いました。
 - ・預かり保育は、教育課程の活動を考慮しながらその内容や方法を工夫し、幼児にふさわしい無理のないものとして幼児の生活に変化と潤いをもたらす配慮をしました。
 - ・適切な指導体制を整備し、教師の責任と指導の下に幼児自身が楽しめるように、教育的意義のある計画を作成しました。
 - ・コロナ感染防止対策として基本的な感染防止策の実施や園内の衛生管理を行いました。
- 預かり保育サービス
 ・平日 14時30分～16時30分 ・長期休業中 8時30分～16時30分(弁当持参)
 【特定財源】子ども・子育て支援交付金 (国)112千円 (県)112千円
 預かり保育保護者負担金 226千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		預かり保育年間利用者数(人)	1,514	1,369
活動		預かり保育年間実施日数(日)	191	203	209
成果		預かり保育サービス利用者満足度(%)	95	95	95
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	112	112	112
		イ 県	143	112	112
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	204	285	226
		オ 一般	0	46	55
		カ 事業費(ア～オ合計)	459	555	505

成果実績評価	成果状況	(状況) コロナ感染予防対策を行い、事業の成果としては順調です。 (原因) コロナ禍の中、安全に過ごせるよう園内の環境を見直すことで、充実した内容の保育が提供できたと思われます。 (余地) 幼稚園と家庭の連携により、取組みを進めることが考えられます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

- 小学校、中学校とも学力が全国平均を上回り、確かな学力が定着していることを高く評価する。
- 授業においてICTの活用はこれからの時代を生きる児童生徒にとって必要なことであり、効果をあげていることは評価に値する。
- 「地域とともにある学校」づくりに取り組んでいることを評価する。
- 今後も教職員の指導力向上のための研修を充実し、児童生徒一人ひとりの学力向上に繋げていただきたい。
- いじめ問題について、今後も、引き続き関係機関と共に情報を共有し早期発見、早期解決、未然防止に努めてください。
- 今後も、児童生徒が生涯にわたって健康増進に繋がる体力向上のための運動の必要性和習慣性、そして食の大事さを説いてください。
- 地域コーディネーターの適切な配置により、学校と地域の連携を図り、教育活動の充実、教職員の負担軽減等につながっていることを評価する。
- 幼稚園において園児が年々減少しているが、保護者との連携を密にし、充実した幼児教育が実施されていることを評価する。
- 幼稚園の取組で、日中に車中泊体験を実施するなどの様々な試みを通じて、防災教育に熱心に取り組み、事前準備の必要性についても考えるきっかけになったことを評価する。災害の多発する現在において、幼少期から防災意識を育てることや対応策を保護者と考えることは必要なことである。
- 授業において、ICTの活用は必要なことであるが、読むこと、書くこと、話すことなど、基本的な能力の育成を徹底してほしい。
- 読書の習慣は一朝一夕に身に付くものではなく、家庭教育の在り方とも密接に関わるものである。家庭学習の習慣化とも合わせてPTAとも連携し、充実を図ってほしい。
- 全国的に不登校児の増加が懸念されている。不登校の原因は一様ではないが、家庭と連携し適切な指導をお願いしたい。
- 様々な機会に児童生徒に接して感じたことだが、児童生徒の思考の瞬発力や対応力に、柔軟さがもう少しあれば良いと感じることがある。学校内における時間的なカリキュラムの問題はあるが、論理的思考力や問題解決能力を養い、新たな変化を生み出す子どもの育成は愛南町をはじめとする日本全国に必要なだと感じる。
- 児童生徒が減少する中で、個々の特性に応じた教育やその力を伸ばすことができる個別最適な教育は、その教育環境を求める町外からの留学生を迎え入れられる可能性や、その相乗効果として、愛南町の子どもたちへ良い影響を与えられる機会へと繋がると考える。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	2	学校給食に関すること		
小項目	1	学校給食の運営・管理		

目標

衛生管理の徹底に努め、安全で栄養バランスの取れた給食を提供し、生涯にわたる心身の健康増進を図るとともに、食育基本法の理念のもと学校が進める食に関する指導の「生きた教材」として、心のふれあいを深め、あたたかい人間関係を育成する。

取組の概要、分析

○衛生管理・食品管理

「学校給食衛生管理基準」の要綱に基づき、給食従事者の健康管理、給食設備並びに食品衛生管理等の定期・臨時及び日常の衛生検査を実施しています。令和5年度は、愛媛県学校給食会が開催する学校給食調理従事職員研修会に全調理員が参加しました。更に栄養教諭と栄養士が全調理員への研修を実施し、衛生管理・食品管理の万全な体制に努めています。

愛南町学校給食異物混入マニュアルに沿って、異物混入の未然防止や混入が発見された場合の対応を行うことで、混入防止と被害拡大防止に努めました。

○食育推進

各学校で授業や給食時間等に栄養教諭による食に関する指導を行いました。そして、地域に根ざした食材を学ぶことを目的として、愛南町で養殖が進められている「ブリ」・「鯛」の給食を提供したり、愛南町の郷土料理である「菜めし」を実施するなど食文化の継承にも努めました。また、学校保健委員会を通して、直接保護者や学校関係者に啓発を行うとともに、「学校栄養士だより」を発行して、広く食育推進を図りました。

学校給食センターは「学校給食衛生管理基準」に適合した施設で、衛生的な調理作業を実施しています。給食は地元食材をできるだけ活用し、調理方法の工夫に努め、栄養バランスの取れた献立としました。事業評価成果指標の一つである残食割合は、1.04パーセントで、食品ロスの取組と連動して成果を上げています。また、平成26年度からは、兵庫県丹波篠山市と食材の交流事業を継続するなど、食に対する関心や理解を深める事業を通して、食育推進に取り組んでいます。

特記事項(前年度比等)

令和5年度は、愛媛大分交流給食での「源兵衛さんごはん(津久見市)」「南蛮煮(臼杵市)」、大人気の児童書「銭天堂」にちなんだメニュー、北海道森町から無償提供されたホタテのクリームシチュー及び閉校(内海中学校・長月小学校・久良小学校)のところからのリクエストメニューを提供するなどの工夫を行いました。

また、毎月「ととの日」や「地産地消の日」などを設定し、漁協や青果市場等関係機関と連携して愛南町産農水産物の食材利用の促進など積極的な地産地消に努めました。また、給食指導等で地元食材の生産者へのインタビュー動画や掲示物をICTを活用して作成し、児童生徒に周知、理解を深めさせました。

6月から南宇和高等学校の生徒(希望者)へバランスの取れた食事の提供と保護者への子育て支援として、給食の提供を開始しています。

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	2	学校給食に関すること		
小項目	2	給食費の適正な徴収		

目標

児童生徒・保護者間で不公平が起こらないよう適正な給食費の徴収に努める。また、新たな滞納者をつくらない仕組みづくりが確立できるよう調査・研究を行う。

取組の概要、分析

○学校給食費

給食費の内容は、学校給食法第11条に保護者負担の経費が明記され、その給食費の保護者負担額は愛南町学校給食センター条例施行規則第2条で定めています。給食費保護者負担額の算定に当たっては児童生徒の栄養を確保し、諸物価の動向、家計への影響等を考慮した額としています。

○納付方法の工夫

給食費の納付は、毎月、保護者口座から引き落としで徴収し、保護者の負担軽減と現金取扱い事故が起きないようにしています。

○給食費滞納者への対策

令和6年3月末で5校、滞納者数は13名（全て既卒者及び転出者）であり、滞納額は788,300円となっています。令和5年度中の過年度分の納入額は0円です。

また、現年度の滞納はなく、7年連続で新たな滞納者をつくらないという目標が達成できています。新たな滞納者が出た場合は、これまで以上に学校と連携して、文書、電話、家庭訪問などの督促を続けながら納入を働きかけ、最終手段としては法的措置も視野に入れた対応の検討も必要であると考えます。

令和5年度も前年度に引き続き新規滞納者はなく、新たな滞納者を出さないという目標が達成できています。今後も学校と連携を密にして、引き続き納入交渉を行っていきます。

また、行先不明者や生活保護者、時効ケース等については、引き続き滞納整理を検討していきます。

特記事項(前年度比等)

近年の燃油価格高騰により多くの生活必需品の価格も上がっていることから、子育て世代の経済的負担軽減のため、10月から幼稚園、小・中学校の給食費を無償化(令和8年度末まで)しています。

学校給食センター管理運営事業

教育委員会部局 学校給食センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	293
施策	01 学校教育の充実	項	07 保健体育費		
基本事業	04 健やかな体の育成	目	05 学校給食費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

・安心・安全な給食提供を最優先課題として、栄養教諭を中心に、地域に密着した食育に取り組めました。

・令和5年度は、園児13名、児童生徒971名、教職員271名ほか試食等及び6月から県立南宇和高等学校希望生徒113名(2学期以降128名)、教員1名約1,390名に提供しました。

・給食費は幼稚園・小学校が250円、中学校が300円(いずれも教職員同額)、10月から園児、児童生徒は無償としています(令和8年度末まで)。また、県立南宇和高等学校の給食費は生徒が3千円(月額)、教員が250円としています。

【特定財源】
 経済対策重点支援地方交付金 16,694千円・学校給食保護者負担金 23,618千円
 行政財産使用料 9千円・学校給食職員等負担金 11,818千円
 給食センター運営費篠山小中学校組合 4,270千円
 【ふるさとづくり基金充当 28,265千円】

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		給食提供日数(日)	200	191
活動		給食提供人数(人)	254,106	224,249	234,329
成果		残食割合(食べ残しの割合)(%)	0.66	1.09	1.04
成果		給食調理上の衛生事故件数(件)	8	6	8
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	16,694
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	70,541	62,647	67,980
		オ 一般	34,857	33,594	25,624
		カ 事業費(ア~オ合計)	105,398	96,241	110,298

成果実績評価	成果状況	(状況)異物混入は、年間10~15件で推移していましたが、令和5年度は8件に抑えられています。 (原因)主な混入物である髪の毛やビニール片など、調理場での目視による発見に努めています。 (余地)下処理や調理中のチェックにより混入物の取り除きを行っていますが、ことあるごとに注意喚起を行い、調理中の混入もしないように注意していきます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

[27]

- 献立に工夫を凝らし、郷土食を取り入れたり、閉校する学校の児童生徒の希望するメニューを加えたりするなど、心のこもった取組がなされていることを高く評価する。
- 献立では、地産地消や児童生徒が喜ぶものなど工夫し、かつ栄養管理も適切になされていることを評価する。
- 食材となる野菜などの生産者の話を聞いたり、調理現場を見学したりするなど、給食に関わる人たちの様子を知ること、感謝する心を育てる取組を評価する。
- 生産者に取材して、野菜などの生産の様態をCATV等を利用して周知していることを評価する。
- 給食費の無償化によって、全ての児童生徒が安心して給食の提供を受けることが出来ることをうれしく思う。その取組を評価する。
- 今年度も残食割合が低く推移している。これは栄養教諭、調理師の方々の日々の努力の結果であり大いに評価する。
- 7年連続で、現年度分の給食費滞納ゼロを評価する。
- CATV等で給食や給食センターについて発信することは、住民等が普段知ることのできない情報だったり、安全性等を感じて貰ったりすることに繋がるため、継続していただきたい。

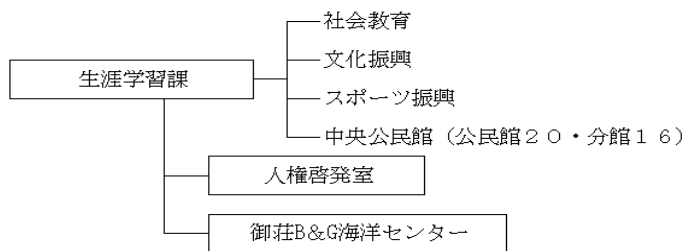
大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	1	学び、伝え、創る生涯学習社会の形成		

目標

- 生涯学習推進体制の整備
- 学習機会の整備、充実
- 社会教育関係団体及び生涯学習指導者の育成と連携促進
- 読書活動の推進及び図書館整備に関する検討

取組の概要、分析

《組織体系》



生涯学習事業については、少子高齢化や高度情報化、価値観の多様化により、町民ニーズが多様化する中、関係団体や公民館等と連携・協力し、住民のニーズを把握しながら、誰もが参加しやすい事業の実施に努めました。引き続き、対象となる年齢層、事業の内容や実施時期、情勢の変化などに配慮しつつ、住民の意向に沿ったきめ細かな事業展開を図っていきます。

なお、各団体の中で婦人会については、会員数が減少傾向にありますが、トレッキング・ザ・空海あいなんのお接待のようにボランティアを中心とした活動が地域コミュニティに活力を与えています。今後も会員の自主性を大切にしながら活動を支援していきます。

また、読書活動の推進については、御荘文化センター図書室を中心に図書館司書による図書サービスの充実に取り組みました。今後とも読書・学習環境の整備を進めながら機運の醸成に努めていきます。

特記事項(前年度比等)

- ・婦人会のボランティア参加会員数(R4/175人→R5/178人)
- ・御荘文化センター図書室貸出冊数及び人数(R4/冊数5,177冊、人数2,349人→R5/5,878冊、人数2,733人)

女性教育推進事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
愛南町連合婦人会が実施する女性教育推進事業に対して補助金を交付し、社会参加を促すための支援を行いました。	
【実績】 ・ 婦人会補助金 1,300千円 等	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動・ 成果 状況	活動	研修会の実施回数 (回)	1	1
活動		ボランティアの実施回数 (回)	10	16	15
成果		研修会参加者数 (人)	5	15	25
成果		ボランティアへの参加会員数 (人)	100	175	178
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	740	1,320	1,310
	カ 事業費 (ア～オ合計)	740	1,320	1,310	

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) ボランティアへの参加者数は178名と、前年度より3名増加しました。 (原因) 新型コロナ5類移行に伴い、徐々に活動を再開する会員も見受けられま す。
	成果向上余地 大 中 小 なし	(余地) 令和元年度と比較し会員数が増加しているため、参加者数の増加余地があ ります。

御荘文化センター自主開催事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	283
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	07 御荘文化センター費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
町民が身近に舞台芸術や文化講演・イベント等を楽しむことができるよう、ホールを使用し自主事業を開催しました。	
【実績】	
・杉村太蔵氏講演会 233名	
・宇崎竜童 弾き語りLIVE2023 487名	
・荒牧陽子 松浦航大 歌まねスペシャルライブ 514名	
【特定財源】	
市町振興協会助成金 2,000千円	
イベント参加料 3,096千円	

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	開催件数(回)	0	4
成果	成果	御荘文化センター自主開催事業の年間入場者数(人)	0	1,011	1,234
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	5,693	5,096
		オ 一般	0	4,413	4,330
		カ 事業費(ア～オ合計)	0	10,106	9,426

成果実績 評価	成果状況	(状況)3事業で3回開催し、1,234人の入場者がありました。 (原因)新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、事業を開催できたことが要因です。 (余地)引き続き、積極的な事業周知を行い、入場者数の増加を図ります。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

御荘文化センター図書室運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	283
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	07 御荘文化センター費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

多くの町民に図書室を利用してもらうため、図書の貸出・購入を行いました。

【実績】

- ・利用者数 2,733人
- ・貸出冊数 5,878冊
- ・図書館司書の設置(1名)
- ・図書室だより発行(毎月)
- ・企画展示(毎月)一般・児童向け
- ・図書室講演会(1回)20人
- ・お話し会・朗読会(4回)23人

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	図書購入数(冊)	439	467
成果	成果	御荘文化センター図書室貸出冊数(冊)	4,239	5,177	5,878
	成果	御荘文化センター図書室貸出人数(人)	2,009	2,349	2,733
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	842	845	973
		カ 事業費(ア～オ合計)	842	845	973

成果 実績 評価	成果状況	(状況) 延べ貸出冊数は13.5%増、延べ貸出人数は16.3%増でした。 (原因) テーマに沿った図書の展示を行い、読書に関心を持ってもらう環境づくりに努めたことが、貸出人数の増加につながったものと考えられます。 (余地) 新刊図書の紹介や図書に関する展示を工夫するなど、さらに読書に関心を持ってもらうことによって、読書人口を増やす余地があるものと思われる。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	2	あらゆる差別や偏見を解消する人権・同和教育の推進と「共生」社会の確立		

目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●人権・同和教育推進体制の確立 ●人権・同和教育指導者の育成と資質の向上 ●人権・同和教育の実践化 	

取組の概要、分析
<p>○ 人権・同和教育の推進 地域と密着している学校や公民館へ人権・同和教育研修会等のための教材等を提供することで、地域社会が効果的に人権・同和教育を推進できるように連携を図りました。 校区別懇談会を開催して、学校及び地域住民が人権について学ぶことができるように努めました。 教職員、行政職員、一般を対象に指導者養成講座を実施して、人権に対する知識と理解を深めるように努めました。</p> <p>○ 人権意識の向上 町外で開催される研修会に対して、参加希望者を各種研修会に派遣し、人権意識の向上を図りました。 人権問題に興味を持ってもらうために、身近な問題をテーマにして、多くの人に学習機会を提供できるように努めました。 同和問題を人権問題の重要な柱として捉え、全ての人権が尊重される社会づくりのために、各種研修会の開催について広く周知をしました。</p> <p>○ 地域に根差した啓発 地域の課題を踏まえながら、各種学級、講座等を通して、課題の解決に向けた学習内容の充実に努め、様々な人権についての知識、理解を深めることにより、問題の解決に向けた学習活動を実施しました。 地域の身近な部分に目を向け、地域に根差した啓発資料として作成した人権作品集「えがお」は、公民館における啓発活動の資料等として活用されています。</p>

特記事項(前年度比等)

取組の詳細

人権啓発事業

事業名	実施日 実施期間	会場	参加人数	内容	備考
校別人権・同和教育懇談会	R5. 5月～12月	小中学校	1,852名	人権集会、講演会、公開授業等	
公民館別人権・同和教育研修会	R5. 4月～3月	公民館	129名	人権啓発教材視聴、朗読会	
人権・同和教育指導者養成講座	R5. 7月～11月	御荘文化センター	252名	講演会	
町職員・教職員・議員等人権・同和教育研修会	R6. 2月				中止
四国地区人権教育研究大会	R5. 7. 12～13	徳島県徳島市	2名	実践報告、研究協議、情報交換	縮小
南予地区人権・同和教育研究協議会	R5. 10. 12	御荘文化センター ほか	521名	実践報告、研究協議、情報交換	
愛媛県人権・同和教育研究大会	R5. 11. 7	県民文化会館 ほか	17名	実践報告、研究協議、情報交換	
全国人権・同和教育研究大会	R5. 11. 25～26	兵庫県明石市	13名	実践報告、研究協議、情報交換	
人権ふぉーらむ	R5. 12. 9	御荘文化センター	160名	シンポジウム	
人権を考える町民の集い	R6. 3. 3	御荘文化センター	86名	映画上映会	
つくし会	毎月 第3金曜日	大森文化会館、本庁	195名	学習会（一般）	
解放未来塾	不定期	大森文化会館	27名	学習会（児童、生徒）	
人権啓発作品集作成	R6. 2月	—	—	「えがお」2,200冊配布	
人権啓発ビデオライブラリー整備	通年	—	—	人権啓発DVD教材5本購入	

人権教育協議会補助事業

教育委員会部局 人権啓発室

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	255
施策	04 人権尊重・男女共同参画の実現	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 人権・同和教育の推進	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

あらゆる差別や偏見を解消する人権・問題教育の推進と「共生」社会の確立を目的とする愛南町人権教育協議会に補助金を交付しました。

- 愛南町人権教育協議会の主な事業
 - ・総会の開催 【参加者167名】
 - ・主催事業『人権を考える町民の集い』【参加者86名】
 - ・後援事業『みつめてみよう人権コンサート』【参加者120名】

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		補助金額(千円)	400	650
活動					
成果		愛南町人権教育協議会が主催及び後援した行事への参加者数(人)	248	241	373
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	400	650	1,400
		カ 事業費(ア～オ合計)	400	650	1,400

成果実績 評価	成果状況	(状況)参加者数を600人と見込んでいましたが、373人と大幅に低下しました。 (原因)研修会等の事業が再開され、昨年よりも参加人数は増えていますが、多くの方に参加していただくための周知が不足していたことが原因だと思われ ます。 (余地)研修会等の事業の充実や参加しやすいように周知していけば、参加者の増加が見込めます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

県人権対策協議会愛南支部補助事業

教育委員会部局 人権啓発室

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	03 民生費	決算書 ページ	127
施策	04 人権尊重・男女共同参画の実現	項	01 社会福祉費		
基本 事業	01 人権・同和教育の推進	目	08 人権・同和对策費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>同和問題をはじめとする、あらゆる人権課題解決のため、愛媛県人権対策協議会愛南支部の活動を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県人権対策協議会事業（各種研修会、大会等）への参加 ・関連事業 <ul style="list-style-type: none"> 南予地区人権・同和教育研究協議会 愛媛県人権・同和教育研究大会 四国地区人権教育研究大会 【人数制限あり】 全国人権・同和教育研究大会 愛南町人権ふぉーらむ 解放未来塾研修 【中止】 	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助金額 (円)		520,000	450,000
活動					
成果	県人権対策協議会愛南支部各種行事及び大会等への参加者数 (人)		21	24	44
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	520	450	1,190
		カ 事業費 (ア～オ合計)	520	450	1,190

成果実績 評価	成果状況	<p>(状況)参加者数は170人を見込んでいましたが、44人と大幅に低下しました。 (原因)新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の大会及び研修会で人数の制限があったためです。 (余地)町と団体が更に連携し、参加しやすいように周知する必要があります。</p>
	<p>向上 維持・横ばい 低下・悪化</p> <p>成果向上余地 大 中 小 なし</p>	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	3	地域ぐるみで取り組む青少年の健全育成		

目標	
<ul style="list-style-type: none"> ●家庭及び地域社会の教育力の向上 ●学校・家庭・地域の連携協力事業 ●放課後・休日児童の安全な居場所づくりの推進 	

取組の概要、分析
<p>P T Aについては、児童生徒の健全育成や家庭教育力の向上、教育環境の充実を目的に、会員同士の交流と自己研さんを図る事業としては「成績をあげるための食生活」をテーマに会員学習会を、また子育てに関連する事業として、町P T A研究大会において「自己肯定感を育む声かけと子どもの上手な叱り方」と題して講演会を実施しました。</p> <p>その他、放課後や長期休暇中の子どもたちの安全、安心な居場所づくりとして御荘夢創造館を活用し「夏休み子ども教室」を、町公共施設を活用し「放課後子ども塾」を実施しました。なお、未開設校区の拡充については、学校及び生徒の実情を把握し、保護者のニーズに沿う取り組みができるよう運営方法等の検討を進めます。</p> <p>また、今後は会員同士の交流や子育てに関連する学習機会の提供、家庭教育の支援においては、家庭における教育力の向上を図るために、子育て中の保護者を支援するなど青少年の健全育成に関する各種取り組みを継続していきます。</p>

特記事項(前年度比等)
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA連合会の理事会参加率(R4/73%→R5/68%) ・放課後子ども教室の利用者数(R4/109名→R5/112名) ・愛南子どもセンターの利用者数(R4/137名→R5/288名)

PTA連合会活動支援事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

愛南町PTA連合会が実施する児童生徒の健全育成のための活動に対して補助金を交付しました。

【実績】

<補助金額>

800千円

<活動内容>

- ・家庭の教育力向上、会員相互の連帯感を深めるため、各種事業や研究大会の企画・運営を支援しました。
- ・研究大会の開催 ・役員校長研修会の開催 ・会員向けの学習会の開催 ・各研修会への参加・広報資料の発行

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助金額 (円)		560,000	430,000
活動	研修会の実施回数 (回)		2	3	3
成果	PTA連合会理事会の参加率 (%)		74	81	73
成果	PTA連合会主催研修の研修参加率 (%)		89	87	68
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	560	430	800
		カ 事業費 (ア～オ合計)	560	430	800

成果実績評価	成果状況	(状況) 理事会の参加率は73%で前年に比べ減少しました。研修は3回行い、参加率は68%と前年に比べ減少しました。 (原因) 理事の就労状況等が変化したことによるものです。 (余地) 年度当初に理事会の開催日をお知らせし、早めの日程調整を行っていただくことで参加率が上がると思われませんが、夜間勤務の理事への参加強制は難しいと考えます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

成人式開催事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)
<p>当該年度に20歳の誕生日を迎える対象者の新たな門出を祝うため成人式の企画運営を行いました。</p> <p>【実績】</p> <p><日 時> 令和6年1月3日 13:30~</p> <p><開催場所> 御荘文化センター</p> <p><参加者数> 158人</p>

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		式典への参加者数(人)	150	141
活動					
成果		式典の参加率(該当者に対する参加者の割合)(%)	73	73	78
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	1,524	1,588	2,003
		カ 事業費(ア~オ合計)	1,524	1,588	2,003

成果実 績評 価	成果状況	(状況)式典の参加者は158名、参加率は78%でした。 (原因)コロナ以前の方法で式典を開催したためです。 (余地)式典内容を工夫し、さらに対象者に興味を持ってもらうことによって、参加者数を増やす余地があるものと思われます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

放課後子ども教室事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成23年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
放課後や長期休暇中の児童の安全安心な居場所作りのため、子ども教室事業を実施しました。	
【実績】	
・子ども塾は、公民館（内海・緑・長月・久良・家串）を利用して平日の放課後の時間帯に開設しました。	
・夏休み子ども教室は、夏休み期間中に御荘夢創造館で8時から18時30分まで開設しました。	
【特定財源】	
地域家庭教育・子育て支援事業費補助金 1,356千円	
放課後子ども教室保護者負担金 292千円	

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	開所日数(日)	622	707
成果	成果	放課後子ども教室待機児童数(人)	0	0	0
	成果	放課後子ども教室利用児童数(人)	93	109	112
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	1,410	1,461	1,356
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	160	226	292
		オ 一般	1,446	1,173	1,168
		カ 事業費(ア～オ合計)	3,016	2,860	2,816

成果実績評価	成果状況	(状況) 令和5年度の放課後子ども教室利用児童数は112名と、前年度より7名増加しています。 (原因) 利用児童数の増加は、保護者の就労状況等が変化したことによるものです。 (余地) 柏子ども塾・緑子ども塾・長月子ども塾・家串子ども塾については、随時入会を受け付けるとともに新規の子ども塾を開設することで成果の向上が見込めます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

子どもセンター運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	253
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	02 青少年の健全育成	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成18年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

子どもに安全な遊び場を提供することを目的とし、愛南子どもセンターの運営を行いました。

<開所日> 毎週土曜日・日曜日（祝祭日・年末年始は除く）
 <開所時間> 9：00～17：00（12：00～13：00は閉所）
 <場所> 城の辺学習館2階 愛南子どもセンター

【実績】

・子どもセンター運営事業事業費 692千円

区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績	
活動・ 成果 状況	活動 開所日(日)	70	93	100	
	活動				
	成果 子どもセンター年間利用者数(人)	206	137	288	
	成果 子どもセンター運営 維持管理上の事故・トラブル件数(件)	0	0	0	
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	233	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	417	633	692
		カ 事業費(ア～オ合計)	650	633	692

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 年間利用者数は288名と前年度に比べ151名(110.2%)増加しました。 (原因) 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、感染拡大防止対策の緩和による外出者の増加による訪問者の増加が原因だと考えられます。 (余地) 子どもの数は今後も減少することが予想されますが、令和5年度の訪問者数を維持していくように、各小中学校・保護者に周知していくよう努めていきます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	4	地域に根ざした公民館活動の充実		

目標	
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域課題に直結する実効性のある公民館活動の推進 ● 公民館事業の点検評価 ● 公民館相互の交流と関係職員の資質の向上 ● 公民館関係団体の育成及び関連機関の連携強化 ● 地域づくりに寄与する人材の発掘・育成 	

取組の概要、取組の分析	
<p>公民館活動については、地区公民館ごとに地域性が異なるなかで、住民ニーズに応えながら地域の特色を生かした公民館活動の充実に努め、地域住民の生きがいをづくりや居場所づくりを支援しました。なお、新型コロナウイルスの影響により、さまざまな制限を受けていた公民館活動ですが、令和5年5月に5類感染症に移行したことで以前の活動を取り戻してきています。</p> <p>また、生涯学習の推進における専門的・実践的な知識向上のため、館長(館主)、主事が各種研修に参加し、他市町の公民館活動や地域づくりを学びました。町内の公民館関係者が一堂に集い、公民館活動の充実にを図ることを目的とした中央公民館主催の研修事業である「公民館研究集会」を他所属職員も参加できる形式で開催しました。</p> <p>さらに、社会教育基本方針に掲げている「公民館事業の点検評価」の推進のため、令和3年度から公民館独自のマネジメントシートを作成し、全公民館でPDCAサイクルを活用した事業展開に着手しています。運営審議会委員や館長(館主)の意見を集約し、事業の課題を明確にして改善案を提示することで、各公民館の地域事情に沿った事業の計画・立案を行っていきます。</p> <p>今後も、研修会や研究会へ積極的に参加することにより、地区公民館相互の交流と関係職員の資質の向上を図りながら、地域に根ざした公民館活動を充実させるための取り組みを継続していきます。</p>	

特記事項(前年度比等)	
<p>・公民館年間利用者人数 R4年度 41,019人[公民館事業14,154人 その他26,865人] R5年度 51,034人[公民館事業16,614人 その他34,420人]</p>	

取組の詳細

公民館事業

事業項目	事業数	回数	内容
家庭教育支援事業	14	16	・親子料理教室 ・お菓子作り教室 ・押し花教室
ボランティア活動関係事業	24	74	・花いっぱい運動（花壇花植え） ・清掃活動（クリーン運動） ・環境美化活動
体験活動事業	50	195	・ドローン体験教室 ・パソコン教室 ・ハンドメイド教室 ・こども生花教室 ・お正月体験教室
学校・家庭連携事業	15	19	・合同運動会 ・人権同和教育研修会
体育・レクリエーション関係事業	69	369	・健康体操教室 ・アーチェリー体験教室 ・グラウンドゴルフ交流会 ・ヨガ教室
福祉関係事業	5	15	・消火、避難訓練 ・健康づくり教室
施設開放事業	12	23	・学習成果発表会 ・なつかしの成人式写真展 ・絵手紙、書道展示
その他	113	362	・英会話教室 ・スマホ講座 ・茶道教室 ・生花教室 ・フラワーアレンジメント教室

わが里づくり事業補助金事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

町民の地域づくりの気運を醸成するとともに、地域の特性を活かした個性豊かな魅力ある地域づくりを支援するため、地域の活性化に貢献すると認められる事業に補助金を交付しました。

- ・各地区等への事業周知
- ・審査会の開催
- ・補助金申請から補助金交付までの申請団体との調整事務
- ・補助金交付、実績確認

【実績】

- ・補助金交付団体 9 団体
- ・補助金交付総額 1,283,600円

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助金支給額 (円)		28,800	1,153,200
活動					
成果	補助金支給団体数 (団体)		1	7	9
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	29	1,153	1,284
		カ 事業費 (ア～オ合計)	29	1,153	1,284

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 補助金支給団体数が前年度と比べ2件増加しました。 (原因) 新型コロナ5類移行に伴い、各団体がコロナ以前と同様の事業実施を行ったためです。 (余地) 各団体が活用しやすいような申請方法等を検討し事業周知をすることで、補助件数の増加を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	A
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	5	地域文化振興と文化財の整備保存		

目標

- 地域文化の保存と振興
- 指定文化財の保護・整備・啓発
- 埋蔵文化財の調査研究・保存活用
- 平城貝塚の国史跡指定へ向けた取組の推進
- 遍路道柏坂の国史跡指定に係る調査

取組の概要、分析

地域文化の振興においては、新型コロナウイルスの第5類への移行に伴い、これまで実施していた入場者数の制限等を緩和もしくは廃止し、文化財保護活用に係る啓発事業（学習会や講座などを8回開催）、御荘文化センター自主事業（3回開催）、文化協会主催の文化祭などの各事業を実施しました。

各事業の参加者は少しずつ増加傾向にありますが、コロナ禍以前の水準には戻っていません。特に学習会などの事業については、参加者数の伸びが鈍化しています。CATVによる後日視聴などが普及し始めたこともあり、参加者の求める事業の実施方法が変化しつつあると考えられますので、今後は住民にとってより参加しやすい形の事業を企画し、インターネットやメディアなどを通じた事業実施を検討するなど、事業の実施方法にも工夫が必要になると思われます。

また、地域の伝統芸能はコロナ禍の影響を受けて簡略化や縮小などの変化が生じているものが多くあります。今後、記録映像などを後世に残していく活動を行う必要があります。

文化財の整備保存においては、史跡の国指定に向けて調査等を進めています。平城貝塚については、地権者の同意を得ながら調査を行い、『平城貝塚総括報告書2』を作成しました。また、柏坂遍路道については地形測量委託業務の後期分を実施し、調査を進めています。

なお、町指定文化財の有形民俗文化財であった『チョウナづくりの家』については、建物の老朽化に伴い危険度が増したため、文化財の指定解除を行いました。文化財の保存と活用については、法令等に基づき適切な文化財行政を推進していきます。

特記事項(前年度比等)

- ・文化財保護活用に係る啓発事業（講座・学習会）の参加者人数(R4年度/274人→R5年度/185人)
- ・御荘文化センター自主事業の年間入場者数(R4年度/1,011人→R5年度/1,234人)
- ・文化祭参加団体数 R4年度/展示・研究部門28団体、発表部門28団体
R5年度/展示・研究部門30団体、発表部門28団体
- ・愛南町指定文化財数(R4年度/95件→R5年度/94件)

文化協会活動支援事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	251
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	01 生涯学習機会の充実と文化活動の活性化	目	01 社会教育総務費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

愛南町文化協会に対して活動費を補助しました。
愛南町文化協会の活動について、事務局として支援しました。
愛南町文化祭の開催にかかる支援を行いました。

【実績】

・各地域の文化発表会が中止になったこと等、事業が縮小した実績に応じて補助金を800千円減額して交付しました。
R5補助金交付実績 1,400千円

	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
活動・ 成果 状況	活動	三役会 評議委員会等の開催数 (回)	8	5	8
	活動	補助金額 (千円)	330	550	1,400
	成果	文化協会加盟団体 会員数 (人)	766	714	687
	成果	文化協会が実施する事業の参加者数及び入場者数 (人)	1,100	1,098	1,266
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	330	550	1,400
	カ 事業費 (ア～オ合計)	330	550	1,400	

成果実績 評価	成果状況	<p>(状況)文化協会実施事業の参加及び入場者数は、前年度比168名増となり、15.3%向上しています。文化協会加盟団体の会員数(純人数)は、27名減で、3.8%の減少となっています。</p> <p>(原因)文化祭が4年振りの通常開催となり、文化センター等で観客を集めて開催したため、事業の入場者数が増加したものと思われます。また、会員の高齢化が進み、登録団体の退会や会員人数の減少が進んでいます。</p> <p>(余地)コロナ禍以前の文化祭各種イベントの復活や周年記念事業を行う等、より魅力的なイベント運営でさらに集客を伸ばしていくことが、文化協会の知名度向上と新たな会員獲得に繋がるものと考えます。</p>
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

文化財保護啓発事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	281
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本事業	04 文化財の保護・活用	目	04 文化財保護費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

・町内に所在する文化財への理解を深めることを目的に、講座を開催しました。
 ・平城公民館平城貝塚展示室の展示物の公開に取り組みました。
 ・町内校の教職員及び児童生徒に対して、社会科または総合的な学習の時間等において、文化財を通じた郷土学習の機会を提供しました。
 【実績】・「平城貝塚シンポジウムVol.2」を開催しました。
 ・「文化財活用サポーター養成講座」を開催しました。
 ・平城貝塚啓発事業「ドッキーをつくる」 「貝塚モンスターを探せ」を実施しました。
 ・令和5年度生涯学習講座(2回)を開催しました。
 ・文化財周知用の掲示物として「松尾峠看板」「平城貝塚展示室表示看板」「平城貝塚中心地横断幕」を設置しました。
 【特定財源】「愛南町史」販売 10千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	講座・学習会の開催数(回)		3	6
活動	CATVにおける文化財等の放映数(回)		3	5	3
成果	講座・学習会の参加者数(人)		96	274	185
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	1,055	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	10
		オ 一般	221	1,079	1,107
		カ 事業費(ア～オ合計)	221	2,134	1,117

成果実績評価	成果状況	(状況)文化財保護及び啓発にかかる講座や学習会の参加者数は89名減少し、前年度から32.5%低下しています。 (原因)コロナ禍を経て、CATVによる講座等の後日視聴が町民の間に普及し始めているため、実際に会場を訪れてのイベント参加から疎遠になっていることなどが原因と考えられます。 (余地)その場に訪れなければ行えない体験型のイベント実施を行うことで参加者数の増加を見込めます。また、CATVでの講座放送を計画の中に取り入れるなど、事業の実施方法自体を環境変化に合わせて変えていく方法も考えられます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

文化財等調査事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	281
施策	02 生涯学習の充実	項	06 社会教育費		
基本 事業	04 文化財の保護・活用	目	04 文化財保護費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>・文化財の調査研究、周知により文化財の保護に取り組みました。 ・埋蔵文化財包蔵地やその可能性のある土地について、確認調査や試掘調査を行うことで、開発行為や史跡指定に備えました。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町指定文化財1件(チョウナづくりの家)の指定解除を実施しました。 ・町内文化財の試掘確認調査を実施しました。 ・柏坂遍路道地形測量委託業務(後期)を実施しました。 ・平城貝塚の動物遺存体分析業務を実施しました。 ・文化庁調査官による平城貝塚保護に関する現地指導を実施しました。 ・平城貝塚総括報告書2印刷製本業務を実施しました。 <p>【特定財源】 令和5年度国宝重要文化財等保存・活用事業費国庫補助金1,580千円</p>	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		新規の文化財指定及び指定替えにかかる調査 研究日数 (日)	365	365
活動		埋蔵文化財包蔵地の調査面積 (㎡)	1,000,000	15,000	12,000
成果		新規の文化財指定及び指定替え件数(累計) (件)	0	0	1
事業費 (千円)	財源内訳				
		ア 国	2,530	1,435	1,580
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	2,590	1,762	2,002
	カ 事業費 (ア～オ合計)		5,120	3,197	3,582

成果実績 評価	成果状況	<p>(状況)町指定有形民俗文化財「チョウナづくりの家」の文化財の指定解除を行いました。また、平城貝塚については国指定史跡に向けて調査等を行い、『平城貝塚総括報告書2』を作成しました。 (原因)チョウナづくりの家は、建物全体の老朽化が進んだため文化財としての指定を解除したものです。平城貝塚については文化庁国庫補助金を活用できたこと、大学教員等の学識経験者から協力が得られたことにより、国指定史跡に向けた準備が進んでいます。 (余地)平城貝塚の国指定が得られた場合、それを有効に活用するための普及活動や調査を計画していく必要があります。</p>
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

大項目	3	管理・執行を教育長に委任する事務	評価	B
中項目	3	生涯学習に関すること		
小項目	6	健康な町民育成のためのスポーツ振興		

目標

- 各種大会の開催及び各種スポーツの普及
- 町スポーツ協会及び町スポーツ少年団加盟団体等への支援
- スポーツ推進委員の研修及び指導
- スポーツ施設環境の整備
- 地域密着型プロスポーツによる地域活性化
- スポーツ合宿の誘致と交流推進

取組の概要、分析

スポーツ振興においては、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、前年度に自粛や中止していた大会を開催することができました。また、各種スポーツ団体への活動支援や全国大会出場における助成金の交付により、スポーツ活動の推進、指導者の育成を図り、あけぼのグラウンドの照明設備改修や西海体育館の外壁等改修工事等を行うなど、スポーツ施設の環境整備、適切な維持管理に努めました。

また、愛媛マンダリンパイレーツの町内でのホームゲーム開催や愛媛FCのマッチタウンゲームによる、プロスポーツを通じた地域活性化の推進や、4年ぶりの開催となったトライアスロン大会や新規開催のシクロクロス大会、スポーツ合宿誘致を実施し、スポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大を図りました。

御荘B&G海洋センターでは、地域住民のスポーツの推進と健康づくりの一環として、B&G会長賞（水泳・ソフトバレーボール・ラケットテニス）、健康づくり教室（エアロビクス・キッズダンス）、水泳教室、海洋クラブ事業を計画通り実施しました。また、施設を安全かつ快適に利用できるよう、施設防犯用カメラ設置工事、屋外照明取替工事、更衣室内個室カーテン設置工事など、施設の適正管理に努めました。

特記事項(前年度比等)

町主催のスポーツ大会・教室等に参加した延べ人数(R4年度/917人→R5年度/1,368人)
 スポーツ施設利用者数(R4年度/84,623人→R5年度/108,215人)
 スポーツツーリズムによる交流人口(R4年度/938人→R5年度/3,951人)
 スポーツ合宿件数(R4年度/7件→R5年度/12件)

取組の詳細

スポーツ振興事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
R5. 4. 26	第26回きなはいや杯クロッケー交流大会	一般	南レク御荘多目的広場	34チーム
R5. 5. 4~6	愛南サッカーフェスティバル (ユースの部)	高校生	あけぼのグラウンド他	10チーム
R5. 5. 4	第45回一本松少年剣道大会	小・中学生	一本松交流促進センター	93チーム 478名
R5. 5. 28	第19回伊予・土佐親善相撲愛南大会	小・中学生	緑公民館常設相撲場	26チーム 82名
R5. 6. 3	第10回愛南町いやしの郷 トライアスロン大会	一般	西海地域	280人
R5. 6. 17	愛媛FCマッチタウン (愛媛FC VS 奈良クラブ)	公式戦	ニンジニアスタジアム	2443人
R5. 7. 9	第19回愛南町スポーツ少年大会 ミニバスケットボール競技	小学生	城辺小体育館	4チーム
R5. 7. 15~16	愛南サッカーフェスティバル (小学生の部)	小学生	南レク城辺芝球技場ほか	25チーム
R5. 7. 16	四国アイランドリーグplus (愛媛MP VS 徳島IS)	公式戦	南レク城辺	334名
R5. 8. 12	愛南サッカーフェスティバル (U-18女子の部)	中学生女子	南レク城辺芝球技場	2チーム
R5. 8. 20	第19回愛南町スポーツ少年大会 相撲競技	小学生	御荘B&G相撲場	3チーム 16名
R5. 10. 8	スポーツフェスタIN愛南 バレーボールほか 3競技5種目	一般	御荘B & G 他	137名
R5. 10. 15	愛南サッカーフェスティバル (キッズの部)	小学生・園児	あけぼのグラウンド	6チーム
R5. 10. 22	第1回南宇和剣道大会	小・中学生	一本松交流促進他	267名
R5. 10. 22	愛南町スポーツ少年大会 ソフトボール競技	小学生	内海運動公園	2チーム
R5. 11. 6~7	あけぼのバレーボール大会	小学生	一本松交流促進他	14チーム
R5. 12. 16	第19回愛南町スポーツ少年大会 サッカー競技	小学生	あけぼのグラウンド	11チーム
R6. 2. 4	第17回愛南町ふれあい健康マラソン大会	小・中・高・一般	御荘B & G 周辺	281名
R6. 2. 24	第19回愛南町スポーツ少年大会 剣道競技	小学生	一本松交流促進	4チーム 13名
R6. 3. 3	第53回南宇和郡サッカー選手権大会	一般	南レク城辺芝球技場ほか	12チーム
R6. 3. 8	愛南町スポーツ協会表彰 表彰式	学生他	伝達表彰	個人25名 3団体
R6. 3. 16	第16回愛南町スポーツ少年大会 バレーボール競技	小学生	一本松交流促進	5チーム

取組の詳細

B & G海洋センター事業

B & G会長賞(各種大会)

年月日	事業名	対象	会場	備考
R5. 6. 18	第29回ミニバレーボール大会 (ミックスの部)	一般	B & G 体育館	7チーム
R5. 7. 8	御荘B & G海洋センター水泳 記録会	町内小学生 外	B & G プール	6チーム
R6. 1. 21	第29回ミニバレーボール大会 (女子の部)	一般	B & G 体育館	7チーム
R6. 3. 10	第18回ラケットテニス大会	一般	B & G 体育館	16チーム

B & G自主事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
通年 (水・金)	健康体操教室	一般	B & G (プール外)	1,904名
通年 (月～土)	水泳教室	幼児・小・中・ 高・一般	B & G プール	7,516名
通年 (水・木)	エアロビクス・キッズダンス 教室	幼児・小・中・ 高・一般	B & G (トレーニングルーム)	1,506名
通年 (毎月4回程度)	海洋クラブ	小・中・高・一 般	御荘湾周辺外	1,038名
R5. 5. 11～6. 17	第34期オタッシャ教室 (転倒予防教室)	一般	B & G 外	110名 (15回)
R5. 6. 27～7. 18	水辺の安全教室 (着衣泳)	小学生	各小学校 (プール)	町内11校
R5. 9. 14～12. 21	第35期オタッシャ教室 (転倒予防教室)	一般	B & G 外	160名 (15回)

B & G財団・四国ブロック・愛媛県連絡協議会事業

年月日	事業名	対象	会場	備考
R5. 6. 24～25	B & G マリンリーダー研修会	県内B & G	松山市中島	1名
R5. 6. 5～7. 6	センター・インストラクター 養成研修	B & G 指導者	沖縄県本部町	1名
R5. 7. 29～30	B & G アクアリーダー研修会	県内B & G	久万高原町	3名
R5. 8. 1～27	愛媛県B & Gスポーツ大会 (水泳の部)	県内B & G	各B & G (プール)	66名
R5. 8. 6	愛媛県B & Gスポーツ大会 (水上の部)	県内B & G	今治市吉海	8名
R5. 8. 8～9	四国ブロック自然体験交流会	四国内B & G	香川県小豆島	中止
R5. 8. 19～20	B & G 海洋クラブ員前期交流会	県内B & G	今治市大三島	8名
R5. 10. 11～12	B & G 四国ブロック研修会	四国内B & G 指 導者	香川県小豆島	2名
R6. 1. 5	B & G 海洋クラブ員後期交流会	県内B & G	久万高原町	21名

スポーツ少年団事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	285
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

団員の競技力、体力向上を推進するため町スポーツ少年大会を開催しました。スポーツ少年団の加入率が低下していることから、全小学校の児童を対象に、現在活動しているスポーツ少年団の取組を紹介することにより加入促進を図りました。団員の競技力、体力向上並びに健全育成を推進するため各スポーツ少年団単位団に対して補助金を交付しました。

【実績】

- ・スポーツ少年団補助金 1,149千円 (14団体)
- ・大会運営費(消耗品等) 636千円

【ふるさとづくり基金充当 1,400千円】

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		スポーツ少年大会の開催回数(回)	2	5
活動		スポーツ少年団への加入数(人)	245	263	263
成果		スポーツ少年団への加入率(%)	35.5	38.4	41.4
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	1,400	1,500	1,400
		オ 一般	182	44	385
		カ 事業費(ア～オ合計)	1,582	1,544	1,785

成果実績 評価	成果状況	(状況)スポーツ少年団の加入率は前年度に比べ3%上昇しました。 (原因)補助金を交付する等の活動支援を行ったためです。 (余地)未加入の児童向けに、活動中のスポーツ少年団を紹介することにより、加入率の向上を図ります。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

[704]

スポーツ協会補助事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成17年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
<p>スポーツ協会の活動支援のために補助金を交付しました。 スポーツ協会やその加盟団体の活動に対し事務局として支援を行いました。 【実績】 ・スポーツ協会補助金 2,400千円</p>	

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助団体数 (件)		15	15
活動	補助金額 (円)		1,680,000	2,400,000	2,400,000
成果	スポーツ協会主催大会数 (回)		1	2	2
成果	スポーツ協会主催大会参加者数 (人)		603	546	418
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	1,680	2,400	2,400
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,680	2,400	2,400

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 大会開催数は前年度と同じ2回でしたが、参加者数は延べ418人と23.4%低下しました。 (原因) スポーツフェスタが雨天のため、屋外競技が中止となったため、参加者数が見込みより少なくなりました。 (余地) 引き続き加盟種目団体と連携し事業の充実を図ります。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

スポーツ大会助成金事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：令和05年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
各種スポーツ団体が主催する対象事業に対して補助金を交付しました。	
【実績】	
・愛南サッカーフェスティバル	1,200千円
・あけぼのバレーボール大会	150千円
・南レクテニス大会	150千円
・南宇和剣道大会	200千円
・一本松剣道大会	200千円
・瀬戸内シクロクロスシリーズ大会	200千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	補助金額 (千円)			
活動					
成果	各種大会参加者数 (人)				2,240
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	0	0	2,100
		カ 事業費 (ア~オ合計)	0	0	2,100

成果実績評価	成果状況	(状況) 町内6つの大会に助成金を交付し、参加者は合計2,240人となりました。 (原因) 複数の補助事業を一本化したためです。 (余地) 参加チーム数等から考えて、現状が適正であると考えため成果向上の余地は小さいと考えます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

スポーツ競技大会出場助成事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	01 各種スポーツ団体及び指導者の育成	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

スポーツ競技力向上推進を図るため、全国大会以上の競技会に出場する選手、監督又はコーチに対し、愛南町スポーツ競技大会出場助成金交付要綱に基づき、経費の一部を助成しました。

【実績】

- ・大会出場懸垂幕 441千円(12本)
- ・スポーツ競技大会出場助成金 590千円(16大会25名)

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		全国大会等選手派遣助成金 交付申請数(個人・団体)(件)	4	26
活動		助成金額(円)	155,000	735,000	590,000
成果		全国大会等選手派遣助成金 交付決定数(個人・団体)(件)	4	26	25
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	320	1,052	1,031
		カ 事業費(ア～オ合計)	320	1,052	1,031

成果 実績 評価	成果状況	(状況)助成金交付決定数は、前年度26件に対し令和5年度は25件と1件減ですが、当初目標の10件を達成しています。 (原因)コロナ禍で中止となった大会が再び開催され、全国大会の開催数が増えてきたことが申請が増えている原因として考えられます。 (余地)各種競技団体と連携し助成対象者の把握に努めます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化	
	成果向上余地	
	大	
	中	
	小	
	なし	

[707]

中学校社会体育等活動事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
各中学校生徒の積極的な社会体育活動等への取組を促進するため、活動に要する経費を補助しました。	
【実績】 ・愛南町社会体育及び文化活動事業費補助金 2,151千円 5団体	

活動・ 成果状 況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動・ 成果状 況	活動	補助件数 (件)	5	5
活動		補助金額 (円)	2,194,000	2,306,000	2,151,000
成果		中学生の社会体育活動等参加者数 (人)	1,041	1,444	1,689
成果					
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	2,194	2,306	2,151
		カ 事業費 (ア～オ合計)	2,194	2,306	2,151

成果実績 評価	成果状況 向上 維持・横ばい 低下・悪化	(状況) 中学生の社会体育活動(文化部含む)参加者数が前年に比べ17%向上しました。 (原因) 前年度と比較して、より多くの大会が開催されたことによります。 (余地) 新型コロナウイルス感染症流行前と同様に各種大会等が開催されるようになれば、中学生の社会体育活動参加者数は増加すると考えられます。
	成果向上余地 大 中 小 なし	

B & G財団関連事業

教育委員会部局 御荘B&G海洋センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	291
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	04 御荘海洋センター費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

B & G財団が推進する各種事業を実践するとともに、地域海洋センターの連携を強化するため、各種会議・研修会に参加しました。

- ・愛媛県B & G連絡協議会主催事業（町長・会長、愛南町・事務局）
- ・B & G四国ブロック連絡協議会主催事業（町長・副会長、愛南町・幹事）
- ・B & G財団事業
- ・B & G全国サミット
- ・B & G全国教育長会議
- ・水辺の安全教室
- ・転倒・寝たきり予防事業（オタッシャ教室）
- ・シニアサークル活動
- ・B & Gセンターインストラクター養成研修

【実施事業】愛媛県B & G連絡協議会主催事業 外20件 408名

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	参加事業数(事業)		10	14
成果	参加延べ人数(人)		231	183	408
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	0
		オ 一般	53	298	1,059
	カ 事業費(ア～オ合計)	53	298	1,059	

成果 実績 評価	成果状況	<p>(状況) 昨年度実績と比較して参加事業数並びに参加延べ人数が増加しました。参加延べ人数については、当初の目標を達成し、288人増となりました。</p> <p>(原因) コロナウイルス感染症が5類に移行となり、年間を通じて事業が実施できたことと、愛媛県B & G連絡協議会の事務局を担当し、会議への出席回数が増えたためだと考えられます。</p> <p>(余地) 今後も年間を通じて事業実施が出来れば、成果の維持は見込めます。</p>
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

水泳・エアロビクス教室運営事業

教育委員会部局 御荘B&G海洋センター

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	289
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	02 各種スポーツ活動への参加機会の充実	目	04 御荘海洋センター費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
健康維持増進、体力の向上を図るため、年間1,184回の教室を開催しました。	
水泳教室：1,034回、7,516名（会員数 R5.4 180名 R6.3 205名）	
エアロビクス教室：96回、809名（会員数 R5.4 32名 R6.3 39名）	
キッズダンス教室：54回、701名（会員数 R5.4 12名 R6.3 19名） (特別教室5回、70名)	
【備品購入費】健康づくり教室の会員数増加のため、移動式ミラーを購入しました。 移動式ミラー購入3台(380千円)	
【特定財源】御荘海洋センター使用料 外 883千円	

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	活動	水泳・エアロビクス教室の開催回数(回)	732	948
成果	成果	水泳・エアロビクス教室の受講者数(人)	6,081	6,653	9,026
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	622	462	883
		オ 一般	0	393	576
	カ 事業費(ア～オ合計)	622	855	1,459	

成果実績評価	成果状況	<p>(状況) 教室受講者数は、昨年度より35.7%(2,373名増)増加していますが、当初の目標は達成できていません。</p> <p>(原因) エアロビクス・キッズダンス教室の会員数増加やコロナウイルス感染症の影響が少なくなり、通常通り教室を運営することができたため教室受講者数は増加したと考えられます。また、全体的な教室在籍人数が減少しているため、目標は達成できていないと考えられます。 (昨年度末：231名、令和5年度末205名)</p> <p>(余地) 各教室の事業周知を行い、会員数の増加を図ります。</p>
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

学校開放施設管理運営事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	289
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本 事業	03 スポーツ施設の利用促進と適正管理	目	03 体育施設費	計画 年度	開始：平成16年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)

利用者の利便性向上や安全性確保のため適切な維持管理を行いました。

- ・対 象 体育館及びグラウンド
- ・開 放 日 日曜日・祝日・長期休業・時間外・平日
- ・開館時間 4月～10月 / 午前9時から午後5時まで、午後7時から午後10時まで
11月～3月 / 午前9時から午後5時まで、午後6時から午後10時まで
- ・予 約：各校区公民館

【実績】

- ・年間利用人数 29,072人
- ・修繕4件（西浦体育館センサーライト、広見グラウンドトイレ、旧赤水小学校体育館外壁、旧菊川小学校体育館入口照明）

【特定財源】夜間照明施設使用料 426千円

活動・ 成果 状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動		修繕件数 (件)	3	3
活動			0	0	0
成果		学校開放施設年間利用者数 (人)	21,941	21,801	29,072
成果		学校開放施設の運営 維持管理上の事故・トラブル件数 (件)	0	0	0
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	397	0	426
		オ 一般	1,522	2,343	2,379
		カ 事業費 (ア～オ合計)	1,919	2,343	2,805

成果実績 評価	成果状況	(状況) 前年度から年間利用者数が33.4%向上しました。 (原因) 新型コロナウイルス5類移行に伴い利用人数が増加したと考えます。 (余地) 今後の利用については、通常通りの施設利用が出来れば利用の増加、維持が見込めます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

愛南町いやしの郷トライアスロン大会実行委員会補助事業

教育委員会部局 生涯学習課

政策	05 豊かな心と文化を育むためのひとづくり	款	10 教育費	決算書 ページ	287
施策	03 スポーツの充実	項	07 保健体育費		
基本事業	04 スポーツツーリズムの推進	目	02 保健体育振興費	計画 年度	開始：平成24年度 終了：令和 年度

手段 (R05年度の取り組み)	
第10回愛南町いやしの郷トライアスロン大会を開催しました。	
【実績】	
・開催日	令和5年6月3日(土)13時競技開始
・会場	愛南町西海地域
・参加者	251名(エントリー数280人)
・完走者	234人
・実行委員会	を2回(5月・11月)開催しました。
【特定財源】	
市町振興協会助成金	4,000千円

活動・成果状況	区分	指標名称	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績
	活動	大会参加者数(人)		0	0
活動	補助金額(円)		690,000	1,200,000	10,300,000
成果	愛南町いやしの郷トライアスロン大会エントリー人数(人)		0	0	280
成果	協賛社数(件)		0	0	34
事業費 (千円)	財源内訳	ア 国	0	0	0
		イ 県	0	0	0
		ウ 地方債	0	0	0
		エ その他	0	0	4,000
		オ 一般	690	1,200	6,300
		カ 事業費(ア~オ合計)	690	1,200	10,300

成果実績評価	成果状況	(状況)新型コロナウイルスの影響により中断していた大会を4年ぶりに開催しました。4年ぶりの大会となり定員の73.6%と目標には達しませんでした。協賛は目標の151.5%増加しました。 (原因)参加者については新型コロナウイルスの影響による選手のトライアスロン離れが要因であると考えます。 (余地)4年ぶりの開催となりましたが、大きな事故もなく終了することが出来ました。アンケートでも愛南大会の高評価は健在であり、今後参加者の増加が期待できると思われまます。
	向上 維持・横ばい 低下・悪化 成果向上余地 大 中 小 なし	

- 生涯学習課の取り組む事案は多岐にわたり、ご苦勞も多いと思うが、住民のニーズを把握し、更なる充実・発展に努めて欲しい。
- 図書室利用者が増加していることを評価する。今後も引き続き書籍を充実させて、親しみやすく利用しやすい環境づくりに努めてほしい。
- 各事業において、コロナ禍で減少していた参加者が、積極的な事業運営によって増えてきていることを評価する。今後も地域住民が参加しやすくなるような事業運営をお願いしたい。
- 差別解消は非常に困難な課題である。地道な活動を一つ一つ丁寧に実施していることを評価する。
- スポーツ合宿の誘致では、地元の小学生との交流を行うことも含め評価できる。
- B & G海洋センターにおいて、防犯カメラを設置することで、様々なトラブルを防ぐ対策をとり、利用者の安全性を向上させたことを評価する。
- B & G海洋センターが、特A評価を19年連続で受けていることを評価する。
- 次世代を担う人材の育成として、心身のバランスのとれた成長を促すために、文化的な施設等の環境の整備が求められる。子どもたちのため、大人のため、将来の愛南町のために図書館を含む文化的な施設整備の熟考をお願いしたい。
- 平城貝塚の国史跡指定がほぼ確定したことを受けて、今後、平城貝塚が愛南町の魅力として住民に理解され、これらの遺産をどう活用するかを住民とともに考え、後世に残していただきたい。
- 同和教育を受けていない世代からの若い世代への影響など、改めて同和教育の難しさを感じており、引き続き啓発をしていただきたい。
- 部落差別解消推進法ができて7年が経過した今も、認知されてない現状があるため、計画的な活動を推進するなど、住民への確実な周知が必要と考える。
- 今後もスポーツ合宿の誘致活動を行って欲しい。確率は低いかもしれないが、関係人口の増加に寄与されると考える。